

○第一二審兩級ニ於ケル主文ノ判定並ニ其基本タル犯罪事實及ヒ刑ノ適用ニシテ全然符合スル場合ニ於テハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ認可シ控訴ヲ棄却スヘキモノトス而シテ第一審判決ノ憑據トナリタル證憑ハ適法ナリヤ否ヤ又其證憑ハ果シテ犯罪事實ノ確定ニ適切ナリヤ否ヤノ如キハ之ヲ問フノ要ナシ

○第二審裁判所ハ控訴カ適法ニ成立シタルヤ否ヤヲ調査スル職責ヲ有ス從テ先ツ其成立如何ヲ調査シ有效ニ控訴ヲ爲シ得サル者ノ爲シタル控訴ハ第一審判決ノ當否如何ヲ問ハス直ニ之ヲ棄却スヘキモノトス

○起訴ノ適法ナルヤ否ヤハ各審級共ニ職權上調査スヘキ事項ニ屬スルヲ以テ各自ラ相當ナリトスル理由ニ基キ之ヲ受理スヘキモノトス從テ偶其受理ノ理由ヲ異ニスルモ之カ爲メ前審ノ判決ヲ取消スノ必要ナシ

○一箇ノ判決ナリト雖モ數箇ノ犯罪ヲ包含シ各別ニ刑ヲ科シタルトキ又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル結果各箇ノ公訴事實全ク獨立シ互ニ牽聯スル所ナキニ至リタル場合ニ於テハ其判決ハ之ヲ分割スルコトヲ得從テ縱令其全部ニ對シテ控訴アリタルトキト雖モ控訴裁判所ハ一審判決ヲ分割シ其不當ナル部分ノミヲ取消スコトヲ妨ケス

三五	九
三五	〇
三五	二
三五	二
三六	三
三六	三
三六	五
三六	五

○第一審判文中金額ヲ表示シタル數字ニ誤謬アルモ其判文殊ニ證據理由ノ部ニ參照シ其誤脫タルコト明白ナル以上ハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消スノ要ナシトス

○騙取ノ金額ヲ變更スルカ如キハ犯罪構成ノ要素ヲ變更スルモノニ非ス從テ第二審裁判所カ第一審裁判所ニ於テ被告ノ騙取セリト認定シタル金額ヲ變更スルモ第一審判決ハ之ヲ取消スヘキモノニ非ス

○贓額ノ多寡ハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ從テ第二審裁判所カ第一審裁判所ト其贓額ノ認定ヲ異ニスルモ必スシモ第一審判決ヲ取消サハルヘカラサルモノニ非ス

○第一審ニ於テ證據調ノ申請ニ付キ決定ヲ爲サハルノ違法アルモ第二審ニ於テ其第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス

○苟クモ第一審判決ニ違法ノ點アルカ爲メ之ヲ取消ストキハ其違法ノ廉カ控訴人ノ不服ヲ唱フル點ニ符合スルト否トヲ論セス控訴ハ其理由アルモノトス

○第一審裁判所ニ於テ兇徒嘯集ノ首魁ヲ教唆者ト判定シタルハ其當ヲ得タルモノニ非スト雖モ教唆者ト云ヒ首魁ト云ヒ共ニ刑法第三百二十七條前段ノ適用ヲ受クヘキモノナルヲ以テ縱令其判定ヲ異ニスルモ法律上

三六	二
三六	二
三六	二
三六	二
三七	七
三七	七
三七	七
三七	七

何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ從テ控訴裁判所ハ其一審判決ヲ取消スノ要ナキモノトス

三七

二三五

○第一審裁判所カ各別ニ審判セル同一ノ被告ニ對スル數箇ノ被告事件ノ判決ニ對シ檢事及ヒ被告ヨリ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ控訴裁判所カ其事件ヲ併合審理シ檢事ノミ控訴ヲ爲シタル甲事件ニ付テハ無罪ナリトシ又乙事件ニ付テハ有罪ナリトシ被告ノミヨリ控訴ヲ爲シタル丙事件ニ付キ亦之ヲ有罪ナリトスルトキハ乙丙事件ノ第一審判決ハ共ニ之ヲ取消シ甲事件ノ控訴ハ之ヲ棄却スヘキモノトス

三七

一六九二

○第二審裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十二條第二項ノ場合ヲ除ク外原判決カ本案ノ事實ニ付キ審判シタルト將タ形式上ノ論點ニ對シテ審判シタルトヲ問ハス控訴ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却スヘク又其理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ自ラ判決ヲ爲サ、ルヘカラス

三六

三〇

○繼續犯タル公訴事實ニ付キ第一審裁判所ニ於テ無罪ノ判決ヲ爲シ檢事ヨリ控訴シタル場合ニ第二審裁判所カ該事實ヲ縮少シ有罪ノ判決ヲ爲スニ當リテハ其證據十分ナラストセル一部ノ事實ニ付キ特ニ控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス

三六

一三五

○民事原告人カ私訴ノ判決ニ對シ控訴ヲ提起シタル場合ニ於テ第二審裁

判所カ第一審裁判所ト事實ノ認定ヲ異ニスルモ同シク其請求ヲ理由ナシトスルトキハ控訴ヲ棄却スヘキモノトス

三六

三二六

○人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルト人ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取スルトハ其手段方法ヲ同ウセサルニ過キスシテ其ニ刑法第三百九十條第一項ノ適用ヲ受クヘキモノトス從テ第一審判決カ恐喝取財ト判定シタル所爲ニ對シ第二審ニ於テ詐欺取財ト變更スルモ之カ爲メニ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

三六

一三四

○恐喝取財ヲ爲スニ因リ私文書ヲ偽造行使シタル場合ニ於テ恐喝取財罪ヲ重シトシテ處斷スルト私文書偽造行使罪ヲ重シトシテ處斷スルトハ判決主文ノ刑ノ由テ生スル法律ノ正條ヲ同ウセス從テ控訴裁判所カ此點ニ付キ第一審裁判所ト其判定ヲ異ニスルニ於テハ縱令主文ノ刑期罰金額等ニ變更ヲ生セサルモ必スヤ第一審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲サ、ルヘカラス

三六

一三四

第二百六十二條 控訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消ス可シ此場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ勾留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ
原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキハ其判決ヲ取消シ事件ヲ其裁判所ニ差戻ス可シ

○刑事訴訟法中第一審裁判所カ不當ニ管轄違フ言渡シタルトキノ外第二審裁判所ニ於テ控訴ニ係ル事件ヲ第一審ニ差戻スヘキ規定アルコトナシ從テ第一審ニシテ判決裁判所ヲ構成セサル違法ノ判決言渡ニ係ル場合ト雖モ第二審裁判所ハ之ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヲ以テ足り事件ヲ第一審ニ差戻スヘキモノニ非ス

○第一審裁判所カ管轄權ヲ有セストノ判決ヲ第二審裁判所ニ於テ是認シ控訴ヲ棄却シタル場合ニ上告審ハ第一審裁判所ニ管轄權アリトシ第二審判決ヲ破毀シ事件ヲ第二審裁判所ニ移シタルトキハ第二審裁判所ハ更ニ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

○區裁判所檢事カ地方裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スル事件ヲ同裁判所檢事ノ移付ニ因リ其裁判所ニ起訴シタル場合ニ區裁判所カ本案ノ判決ヲ與ヘタルトキト雖モ控訴審タル地方裁判所ニ於テ裁判所構成法第十六條第三號二ノ前段ノ事由アリトスルトキハ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ理由トシテ其判決ヲ取消スヘキモノトス而シテ此場合モ亦刑事訴訟法第二百六十二條第一項ノ規定ニ該當ス

○第二審裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十二條第二項ノ場合ヲ除ク外原判決カ本案ノ事實ニ付キ審判シタルト將タ形式上ノ論點ニ對シテ審判シ

三五 一〇 二四

三六 一七 二七

三七 三九 九

タルトヲ問ハス控訴ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却スヘク又其理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ自ラ判決ヲ爲サ、ルヘカラス

三六 三〇

○刑事訴訟法第二百八十七條ハ管轄問題ニ關シ何等ノ文字ヲ示サ、ルモ管轄違ノ判決ヲ爲スヘキ場合ヲ除外シタルモノト認ムヘキ規定ナケレハ上告裁判所カ第一審裁判所ノ管轄違ナリトスル判決ヲ以テ相當ト認ムル場合ニ之ニ對スル第二審判決ヲ破毀スルトキハ同法第二百六十二條第一項ニ從ヒ管轄ニ關シ直ニ其判決ヲ爲スヘキモノトス

三六 六三

第二百六十三條 前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地方裁判所自ラ其事件ニ付キ第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可シ但事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

○刑事訴訟法第二百六十三條ノ規定ヲ適用スヘキ場合ハ管轄違ノ效力ニ對スル特例ニ屬シ管轄違ナル裁判所ノ審理判決ノ外ハ檢事ノ起訴等總テ其效力ヲ保有セシムルモノトス

三七 八四

第二百六十四條 控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セザルトキハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ

○刑事訴訟法第二百六十四條「控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ云々」ノ規定ハ地方裁判所カ輕罪事件トシテ輕罪ニ關スル手續ニ依リ審理シタル事件ヲ控訴院ニ於テ初メテ重罪ナリトスル場合ニ適用スヘキモノトス從テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ト雖モ既ニ地方裁判所カ重罪事件トシテ重罪ニ關スル手續ヲ履行シ審理シタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○重罪事件ノ下調ニ關スル受命判事ノ報告ハ必スシモ書面ヲ要セス口頭ヲ以テ之ヲ爲スモ妨ナシト雖モ既ニ報告書ヲ差出シタル以上ハ別ニ口頭ノ報告ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス

○刑事訴訟法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ受命判事ヲ指定スルハ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ト同時ナルコトヲ要セザレハ該決定ヲ與ヘタル後受命判事ヲ指定シテ事件ノ取調及ヒ報告ヲ爲サシムルモ違法ニ非ス

第二百六十五條 被告人、辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス
被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ

三六

一〇三

三七

一八七

三五

八

七

○控訴審ニ於テ新ナル一罪ヲ認メタルモ刑ヲ加重セザリシトキハ刑事訴訟法(第二百六十五條)ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告ノ不利益ト爲シタルモノニ非ス

○沒收ノ理由ノ説明ニ失當ノ點アリトスルモ第一審判決ニ於テ沒收ヲ言渡サ、ルニ因リ刑事訴訟法第二百六十五條ニ則リ第二審判決ニ於テモ亦沒收ノ言渡ヲ爲サ、リシ場合ハ結局沒收ノ刑ナキヲ以テ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○一審判決ニ於テ認メタル六箇ノ犯行為ヲ二審判決ニ於テハ十二箇ノ犯行為ナリト認定スルモ其事實ニシテ公訴事實ノ範圍内ナルトキハ之ヲ以テ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シ若クハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

○第一審裁判所カ相被告四名ヲシテ負擔セシムヘキ公訴費用ヲ三名ノ連帶負擔ト爲シタルハ不當ナリト雖モ第二審裁判所ハ被告ノミノ控訴ニ係ル場合ニ於テハ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルヲ得サルカ故ニ之カ更正ヲ爲サ、ルハ相當ナリ而シテ公訴費用ハ元來相被告各自ニ於テ其全部ヲ負擔スヘキモノナルヲ以テ第二審裁判所カ第一審判決ノ如ク被告ノ中一名ヲ除キ他ノ三名ニ連帶負擔ヲ命シタレハトテ被告等

三五

二

四

三五

五

七

三五

六

二

ノ不利益ナリト云フヲ得ス

三六

一九二

○ 検事ノ控訴ニシテ特ニ被告人ノ利益ノ爲メ爲シタルモノニ非サルトキハ控訴裁判所ハ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更シ得ルハ勿論其利益ニモ亦之ヲ變更シ得ルモノトス

三七

四

○ 第一審判決ヲ變更シタル結果被告人ニ未必ノ不利益ヲ生スヘキトキハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ不利益變更ニ非ス

三七

四一六

○ 控訴審ノ確定判決カ再審ノ訴ニ因リ破毀セラレタル場合ニ其事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ該確定判決ノ科刑ノ範圍内ニ於テ判決ヲ爲シ得ヘク毫モ第一審判決ノ科刑如何ヲ顧ミルノ要ナシ

三七

四七〇

○ 刑事訴訟法第二百六十三條ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ管轄違ナリトシテ原判決ヲ取消シ自ラ第一審トシテ審理判決ヲ爲スモノナレハ恰モ管轄違ヲ言渡シ事件ヲ検事ニ交付シ検事ヨリ更ニ起訴ヲ爲シタルト同一ニシテ變更スヘキ判決アルコトナシ從テ同法第二百六十五條ノ制限ヲ受クルノ限ニ在ラス

三七

三七

○ 第一審ニ於テ被告ニ二箇ノ犯行為アリトシ其各所爲ニ對シ罰金二十圓ヲ言渡シタル場合ニ第二審カ之ヲ變更シテ單一ノ犯行為ナリトシ罰金三十圓ヲ言渡スモ刑事訴訟法第二百六十五條ノ不利益變更ニ非ス

三七

三七

○ 第一審判決ニ對シ被告及ヒ検事ヨリ各控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ第二審裁判所カ検事ノ控訴ニ基キ第一審判決ヲ取消シ更ニ其控訴申立ノ趣旨ニ從ヒ擬律ヲ爲シ而モ検事ノ主張ニ係ル被告ノ所爲中其一ヲ重シトシテ刑ヲ科スヘキトキハ縱令第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スモ刑事訴訟法第二百六十五條ノ不利益變更ニ非ス

三六

四六

○ 連帶義務者ハ各自其義務ノ全部ヲ負擔スヘキモノナレハ縱令控訴判決ニ因リ求償額ノ割合ニ變更ヲ來スコトアルモ之ヲ以テ原判決ヲ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

三六

八六六

第二百六十六條 控訴申立人出頭セサルトキハ開席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ開席判決ヲ爲ス可シ

○ 控訴申立人タル被告カ公判期日ニ出廷セサルニ因リ控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ事實ニ關スル證據調ヲ爲スヘキモノニ非サレハ被告ニ於テ證據調ノ申請ヲ爲スノ權ナキハ勿論縱令既ニ其申請ヲ爲シ且裁判所カ一旦之ヲ採用スル旨ノ決定ヲ與ヘタルトキト雖モ該申請及ヒ決定ハ被告ノ闕席ノ爲メ全然其效力ヲ喪失スルモノトス

三六

一九

第三章 上告

- 還付處分ニ付キ失當ノ點アリトスルモ自己ノ利害ニ關係ナキ被告ハ之ヲ論争スルヲ得ス
- 上告裁判所ニ於テ被告事件犯罪ヲ構成セサルモノトシテ無罪ノ判決ヲ受クヘキ地位ニ在ル被告ノ上告論旨トシテ第二審裁判所ノ事實ノ認定ニ違法アリト主張スルハ被告ノ利益トナラサルモノトス
- 裁判所ニ於テ管轄ヲ否認シ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其判決ハ結局被告人ニ利益ナル性質ヲ有ス從テ該判決ヲ不當ト爲シ其破毀ヲ求ムル被告人ノ上告ハ不法ナリトス
- 第二回ノ闕席判決ニ對スル上告ハ原裁判所カ闕席判決ヲ言渡スヘカラサル場合ニ之ヲ言渡シタルコトヲ主張シ其判決ヲ破毀シテ更ニ本案ノ審理判決ヲ受クルコトヲ唯一ノ目的ト爲スヘキモノナレハ本案ニ關スル理由ニ基キテ原判決ヲ攻撃シ得サルモノトス
- 控訴裁判所カ特許侵害ノ事實アリト判定シタル場合ニ苟クモ其認定ニシテ間然スル所ナキ以上ハ縱令其後ニ至リ特許無効ノ審決アルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
- 民事原告人ノ請求ヲ却下シタル判決ニ對シテハ被告ニ於テ其理由ヲ不當トスルモ上告ヲ爲スコトヲ得ス

三五	六
三六	一六〇
三七	一四六
三七	一六八
三七	一八一
三七	一九七

- 控訴院カ二箇ノ別異ナル判決ヲ以テ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ニ對シテ刑ヲ言渡シタルトキハ其取消ノ判決ハ本案判決ノ前提ニシテ之ト分離スヘカラサル關係ヲ有ス從テ被告カ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テノミ上告ノ申立ヲ爲スモ之カ爲メニ取消ノ判決ニ對シテ不服ノ申立ナキモノト云フヲ得ス
- 公權ヲ剝奪セラレタル者カ證人トシテ供述ヲ爲シタル場合ト雖モ其事實カ第二審判決ノ當時記録又ハ公判ニ顯ハレサルトキハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス
- 民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ該事件ノ第二審繫屬中ニ死亡シタルトキハ縱令委任消滅ノ通知ナキモ其訴訟手續ハ控訴判決ノ言渡以後中斷セラル、カ故ニ民事原告人ハ該判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
- 權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ私訴事件ニ於テ共同訴訟人ノ一名ニ中斷ノ原因ヲ生シタルトキハ其事件全體ニ付キ訴訟手續ヲ中斷スルモノトス
- 權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ私訴事件ニ於テ共同訴訟人ノ一部ノミニ對シ上告ヲ申立ツルハ不法ナリ

三六	一七〇
三六	二五三
三六	二〇〇
三六	二〇〇
三六	二〇三

互ニ分離スルヲ得サルモノトス從テ之ニ對スル被告ノ控訴中ニハ當然ニ事件ヲ包含ス

三五

五

一

○一審判決ニ於テ認メタル六箇ノ犯罪行為ヲ二審判決ニ於テハ十二箇ノ犯罪行為ナリト認定スルモ其事實ニシテ公訴事實ノ範圍内ナルトキハ之ヲ以テ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シ若クハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

三五

六

六

○豫審終結決定書ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シタル事實ニ對シ審理判決シタルハ不法ナリ

三五

六

六

○官名ヲ詐稱シ人ヲ恐喝シテ金圓ヲ騙取センコトヲ共謀シタル旨ヲ判示スルモ其詐稱ノ實行ニ加功シタル事實ヲ判定セスシテ官名詐稱ノ正犯ナリトシ處罰シタルハ不法ナリ

三五

三

三

○偽造ノ手段方法ハ犯罪ノ成立ニ影響ナキヲ以テ之ヲ判文ニ明示セサルモ不法ニ非ス

三五

四

九

○公訴ニ附帶スル私訴ハ全ク公訴ト主從ノ關係ヲ有ス從テ其判決理由ノ說示ヲ主タル公訴判決ニ讓ルモ不法ニ非ス

三六

一

六

○衆議院議員候補者ノ爲メ投票ヲ得ルノ周旋方ヲ依囑シ運動費トシテ金錢ヲ供與シタル事實アルモ其金員ニシテ實際運動ノ爲メ要スル費用ヲ

三六

一

六

支拂フモノナリトセハ犯罪ヲ構成セス之ニ反シテ運動費ノ名稱ヲ以テ運動行為ノ報酬トシテ授受シタルモノトセハ衆議院議員選舉法第八十七條ニ該當ス從テ此點ヲ說明セスシテ同法條ヲ適用シタル判決ハ理由不備ナリトス

三六

一

七

○私印偽造行使罪ヲ斷スルニ當リ特ニ其印類ヲ調製シテ使用シタルモノナリヤ若クハ既存ノ印類ヲ使用シタルモノナリヤヲ明確ニ判示セサル判決ハ不法ナリ

三六

九

八

○官吏收賄罪ハ官吏カ其職務ノ執行ニ關シ人ノ請託ヲ容レ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル事實アルニ因テ成立ス從テ小學校圖書審査委員ニ選任セラル、コトヲ豫想シテ賄賂ヲ授受シタル場合ニ於テ收受者カ該委員ニ選任セラレタル事實ヲ確定セサル判決ハ理由不備ノ不法アルヲ免レス

三六

一

三〇

○酒造税法違犯事件ノ判文ニ於テ單ニ不正ノ手段ヲ以テ清酒ノ査定ヲ免レト記載シ被告カ如何ナル手段ヲ以テ其査定ヲ免レタルヤヲ明示セサルトキハ犯罪事實ニ付キ理由不備ノ違法アリトス
○犯罪ノ場所ハ其犯罪ニ適用スヘキ法律ヲ定ムルノ標準ト爲ルト同時ニ其犯罪ノ裁判管轄ヲ定ムルノ作用ヲ爲スモノナレハ犯罪事實ノ摘示ニ

三七

一

七

於テ全然場所ニ關スル記載ヲ缺如シタル判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス

三六

二二五

○製鐵所管理人甲者ニ對シ木材返還ノ私訴ヲ提起シタル場合ニ於テ民事被告人甲者ハ其買得セル木材ヲ民事原告人ニ返還スヘキコトヲ言渡シタル判決ハ甲者其人ニ對スルモノナルヲ將タ製鐵所持主ノ代表者トシテ之ニ對スルモノナルヲ知ルニ由ナキ不法ノ裁判ナリ

三六

二〇四

○請求ノ目的物ニ付キ第三者ノ生シタルコトノミヲ説明シ其第三者ノ所有者ナルヲ將タ抵當權者ナルヲ明確ニ説明セサル判決ハ不法ナリ

三六

一三九

○甲ニ還付スヘキ贓品ヲ乙ニ還付スト判示シタル裁判ハ不法ナリ

三五

一五七

○預リ證書中保證債務ヲ證スヘキ一部ヲ騙取シタル事實ヲ認メナカラ證書全部ヲ被害者ニ還付スヘキモノト判決シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス

三五

二五一

○第一審判決ニ於テ私印偽造行使罪ヲ構成スルモノトシタルヲ第二審判決ハ第一審ノ認定事實ヲ變更シテ有合印ヲ押捺シタリト事實ヲ認定シタルニ拘ハラス此點ニ付キ一審判決ヲ取消シ且無罪ノ言渡ヲ爲サ、ルハ認定シタル事實ニ法律ヲ適用セサルモノニシテ擬律ノ錯誤ナリ

三五

二七

○偽造ト云ヒ變造ト云フモ共ニ刑法第二百三條ノ適用ヲ受クヘキモノナ

レハ縱シ其判定ヲ異ニスルモ法律上何等ノ影響ヲ生スヘキモノニ非ス從テ之カ爲メ判決ヲ取消シ又ハ判決ヲ破毀スヘキ限ニ在ラス

三五

八六

○第一審公判始末書ニ所屬官署ノ印ノ押捺ナク無効ノ書類ナルトキハ第一審裁判所ノ構成及ヒ其審理手續ノ適法ナルヲ否ヤヲ知ルニ由ナシ從テ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消サ、ルヘカラサルニ之ヲ取消サ、リシハ不法ナリ然レトモ其不法ハ單ニ法律適用ノ點ノミニ關スル不法ニシテ擬律ノ錯誤ナリトス

三六

六三

○第一審判決ト第二審判決ト相符合セサル場合ニ在テ第二審判決ノ不當ニシテ第一審判決ノ正當ナルトキニ第二審裁判所カ第一審判決ヲ取消サ、リシハ結局正當ナルノ結果ヲ生スヘキモノト同時ニ第二審判決ハ其自體ニ於テ失當タルヲ免レヌ

三六

一六四

○還付ノ言渡ヲ爲スニ付キ第一審判決ト第二審判決ト其適用スル法則ヲ異ニシ一審判決ニ違法アルコトヲ認メタルニ拘ハラス之ヲ認可シテ被告ノ控訴ヲ棄却シタル第二審判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス

三六

二二六

○再度ノ闕席判決ニ對シテハ故障期間存セサルヲ以テ之ニ對スル上告申立ノ期間ハ闕席判決ノ言渡ヨリ起算スヘキモノニシテ其送達ヨリ起算

スヘキモノニ非ス

(同主旨)

上告申立ノ期間ハ判決言渡ノ日ヨリ三日ニシテ關席判決ニ對スルトキハ其判決ノ送達ヨリ期間ヲ算定スヘキ特別ノ規定アルコトナシ從テ關席判決ニ對スル場合ト雖モ判決言渡後三日内ニ其申立ヲ爲サハルヘカラズ

○民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ其事件ノ第二審繁屬中ニ死亡シタルトキハ控訴判決ニ對スル原告人ノ上告期間ハ訴訟手續受繼届ノ送達ノ日ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス

第二百七十三條 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ相手方ニ送達ス可シ

○勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲ス場合ニ於ケル申立書提出ニ關スル法則(刑事訴訟法第二百四十五條)ハ上告趣意書提出ノ場合ニ在リテモ仍ホ適用セラレヘキモノナリトス從テ勾留ヲ受ケタル被告人ニシテ上告申立ヲ爲シタルヨリ五日ノ期間内ニ上告趣意書ヲ監獄署長ニ差出シタル以上ハ該趣意書ノ裁判所ニ到達シタルト否トニ拘ハラズ提出ノ效力アルモノトス

三七	四七九
三六	五三四
三五	一三〇
三五	七

○上告ノ理由ハ趣意書ヲ以テ明白ニ指示スヘキモノトス從テ單ニ法律ヲ不當ニ適用シ及ヒ法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリトノミ記載シ其不法ノ點ヲ指示セサル上告趣意書ハ無効ナリ

○外國語ヲ以テ記載シタル上告趣意書ハ無効ナリ

○法定ノ期間内ニ上告趣意書ヲ提出シタルモ爾後之ヲ取消ストキハ上告成立ノ要素ヲ缺キタルモノトス故ニ其趣意書ヲ取消シタル日ニ於テ更ニ趣意書ヲ提出スルモ何等ノ效力ヲ生セズ

三五	六一六
三六	一六〇
三七	一八〇

第二百七十六條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル上告ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトナ得

○原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル上告ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ(刑事訴訟法第二百七十六條)トアル其期間ニハ上告趣意書提出ノ期間ヲモ包含ス

三五	三三九
----	-----

第二百八十一條 上告申立人及ヒ相手方ハ受命判事ノ報告書ヲ差出スマテハ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ上告裁判所ニ差出スコトナ得
受命判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

○公廷ニ於テ相被告ノ上告趣旨及ヒ辯明書ヲ援用ストノ辯護人ノ申立ハ相被告ノ上告趣旨及ヒ辯明書ト同一趣旨ナル辯明書ヲ更ニ差出シタル

ト同一ノ措置ナリトス從テ受命判事カ報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ提出シタルニ外ナラサレハ刑事訴訟法第二百八十一條ニ依リ之ニ對シ判決ヲ與フルノ要ナク其申立ハ採用スルニ由ナキモノトス

第二百八十六條

上告ヲ理由アリトスルトキハ其上告ニ係ル判決ノ部分ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス可シ但後二條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

○森林法ニ依リ處斷スヘキ犯罪ニ付テハ刑法ノ數罪俱發例ヲ用キスシテ刑ヲ併科スルモノトス故ニ森林竊盜及ヒ恐喝取財被告事件ノ判決ニシテ森林竊盜事件ニ對スル部分ニ違法アルモ恐喝取財事件ノ判決ニハ何等ノ影響ヲ及ホサ、レハ單ニ森林竊盜罪ニ關スル部分ノミヲ破毀スヘキモノトス

○甲控訴院ノ判決ヲ破毀シテ乙控訴院ニ移送シタル場合ニ在リテハ甲控訴院ニ於テ爲シタル證人喚問ノ決定ハ消滅ニ歸スヘキヲ以テ乙控訴院ハ之ヲ取消スノ要ナク又其證人正當ノ事故ナクシテ出頭セサルコトアルモ之ニ對シテ制裁ヲ加フルノ權ナシ

○甲控訴院ノ第二審判決ニシテ上告ノ結果全部破毀セラレタルトキハ同院カ該判決以前ニ爲シタル證據決定ノ如キハ自ラ廢棄セラレ其效力ヲ失フモノトス從テ事件ノ移送ヲ受ケタル乙控訴院ハ毫モ之ニ羈束セラ

ル、コトナシ

第二百九十二條

第一審裁判所ト第二審裁判所トナ間ハ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付キ上告ヲ受ケル權アル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ直チニ其事件ニ付キ判決ヲ爲スコトヲ得

○囑託ヲ受ケ自殺者ノ爲メニ手ヲ下シタル者(刑法第二百二十條)ニ科スルニ重禁錮ノ刑ヲ以テシタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル失當ノ判決ナリトス

第四章 抗告

第二百九十四條

抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲スコトヲ得シ

○抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第二百九十六條

抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ送付シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出ス可シ其裁判所又ハ豫審判事ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シテ三日内ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ且豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ訴訟記録ヲモ送致ス可シ

刑事訴訟法

第二百九十二條

第二百九十四條

第二百九十六條

三四九

同法判例
二九年一
四八頁

三八

二二五

三五

三

六九

三六

二〇三

三六

二一九

三七

二〇八

三八

四三

○豫審終結決定ニ對スル抗告ノ申立書ハ之ヲ豫審判事ニ差出シ豫審判事ニ於テ理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シ申立書ヲ抗告裁判所ニ送致スヘキモノトス(刑事訴訟法第二百九十六條)而シテ豫審判事力之ヲ送致シタル以上ハ其意見ヲ付スルト否トハ抗告受理ノ條件ニ非サルヲ以テ意見書ニシテ法式ヲ欠キ無効ニ歸スルモ抗告裁判所ノ決定ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

○豫審終結決定書ノ前書ニ被告人一同ノ氏名ヲ登載シアルモ其決定書ニシテ檢事ノ抗告ニ係ル被告人中ノ一人ニ對スル決定ヲ更正シタル新決定書ナルコト明カナル以上ハ該抗告ニ關係ナキ被告ニ對シ何等ノ效力ヲモ有セス

第六編 再審

第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪、輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一 人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認メラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

第二 同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第三 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シ

タルトキ

第四 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第五 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第六 判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ

○刑事訴訟法第三百一條ニ所謂刑ノ言渡ニハ刑ヲ言渡シタル闕席判決ハ勿論該判決ニ對スル故障棄却ノ言渡ヲモ包含セルモノトス

○明治六年一月生ノ被告カ犯罪ノ當時即チ明治二十五年十二月三十一日ニ於テ滿二十歳ナリト認定シタルハ明治六年第三十六號布告ノ結果ニシテ訴訟記録ノ錯誤ニ因リタルモノニ非サルトキハ錯誤ヲ理由トシテ再審ノ訴ヲ提起スルヲ得ス

○刑事訴訟法第三百一條第五號ノ公正證書ハ訴訟記録以外ノモノナルコトヲ要ス從テ其記録ノ一部ヲ以テ他ノ一部ノ錯誤ヲ證明スルモ再審ノ理由トナラス

○刑事訴訟法第三百一條第五號ニ所謂訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルトハ故意又ハ過失ニ因リ訴訟記録カ眞實ニ反スルノ義ナリトス故ニ過テ訴訟手續ニ關スル法則ニ違背シテ作成シタル記録ノ如キハ之ニ包含スル

三五 三 七

三五 五 三七

三八 一 二〇

三六 三 三五

三六 四 〇二

コトナシ

○裁判所カ被告ノ前科ヲ認ムルノ憑據ト爲シタル裁判謄本ニ誤謬ノ記載アリテ爲メニ其實實確定ニ影響ヲ及ホシ被告ニ不利ナル判決ヲ言渡シタル場合ニ於テハ刑事訴訟法第三百一條第五號ニ該當スル再審ノ理由アルモノトス

○刑事訴訟法第三百一條第五號ノ訴訟記録トハ事實ノ認定ニ直接ノ關係アル記録ヲ指稱セルモノトス從テ訴訟手續ニ關スル訴訟記録ノ偽造又ハ錯誤ヲ以テ再審ノ理由ト爲スヲ得ス

○刑事訴訟法第三百一條第六號ニ所謂民事上ノ判決トハ通常裁判所カ民事訴訟法ニ依リテ爲スヘキ判決ヲ指稱ス從テ特許局カ特許法ニ基キテ與フヘキ特許ハ之ニ包含セス

第三百七條 上告裁判所ニ於テ再審ノ理由アルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スヘキコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ
其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

○乙者カ甲者ニ言渡サレタル闕席判決ニ對シ甲者ノ名稱ヲ以テ故障ノ申立ヲ爲シ更ニ闕席判決ヲ受ケタルモ該判決ニ再審ノ理由アルカ爲メ上

告裁判所ニ於テ之ヲ破毀シタルトキハ其移送ヲ受ケタル裁判所ハ先ツ原裁判所ノ第一闕席判決ニ對スル故障ノ適法ナルヤ否ヤヲ審理シ乙者ハ甲者ト別人ニシテ故障ヲ爲ス能力ナキモノト認ムルニ於テハ本案ノ審理ニ入ラスシテ直ニ故障ヲ棄却セサルヘカラス

第八編 裁判執行、復權及ヒ特赦 第一章 裁判執行

第三百十九條 死刑ヲ除ク外刑ノ言渡確定シタルトキハ直チニ之ヲ執行ス可シ
體刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ遵レタル者ニ對シ檢察ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力有ス其闕席判決ニ係ル場合ニ於テ發シタルモノ亦同シ

○刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ依リ檢察ノ發スル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノナレハ一般令狀ト同シク其真正ヲ確保スル爲メ作成者自ラ其名ヲ署スヘキモノトス

第三百二十條 刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢察又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ
罰金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徴金ハ檢察ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス可シ
破壞又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢察之ヲ處分ス可シ

○文書ノ變造部分ヲ沒收スル場合ニ於テ其部分ヲ毀滅セハ他ノ部分ノ効

刑事訴訟法 第三百十九條 第三百二十條

三五三

三七

三六八

三六

六〇四

三七

一一〇

三七

三〇八

三六

八九七

三七

二八九

カヲモ失ハシムルニ至ルヘキトキハ檢事ハ其變造部分ニ抹消ヲ爲シ且變造前ノ文字ヲ明カナラシムルノ附記ヲ爲スカ或ハ變造部分ハ確定判決ノ爲メ沒收ニ歸シタル旨ノ附記ヲ爲ス等ノ方法ニ依リテ其沒收ノ判決ヲ執行シ得ルモノトス

第三百二十二條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

○判決主文ニ於テ刑期通算ノ言渡ナク而シテ其主文ノ刑ノ確定シタル後ニ於テハ縦令判決理由ニ通算ノコトヲ記載シアルモ通算ノ利益ヲ主張シ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス

三

二〇九

三

二〇八

譜
法
令

帝國憲法

第五十八條

裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

○領事ハ憲法第五十八條ニ謂フ法律ニ定メタル資格ヲ具フル裁判官ニ非
スト雖モ民刑訴訟事件ニ付キ其權限内ニ於テ爲シタル裁判ハ固ヨリ適
法ニシテ有效ナルモノトス

衆議院議員選舉法

第八十七條

選舉ノ前後チ間ハ左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ
輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人
又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込テ承諾
セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與テ受ケ若ハ申込テ承諾シタル者
- 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何ナルチ間ハ人ヲ饗應接待シ又ハ饗

應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徴ス

○衆議院議員選舉法第八十七條ノ罰則ハ選舉權ノ行使ヲ安全公平ナラシメンカ爲メニ設ケラレタルモノトス從テ議員候補者ニ被選舉權ノ有無ハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○何人ト雖モ選舉ニ關シ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニ規定シタル所爲アリタルトキハ同條ヲ適用シ處罰スヘキモノトス從テ衆議院議員候補者ノミニ限ルモノニ非ス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニハ選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其他ノ利益若クハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者云々トノミアリテ供與若クハ供與ノ申込ヲ爲ス人ニ付キ何等制限アルコトナシ從テ特ニ議員候補者ニ限ラス何人ト雖モ選舉ニ關シ供與若クハ供與ノ申込ヲ爲シタル者ハ總テ同條項ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

○人ヲ介シテ選舉有權者ニ金錢ノ供與ヲ申込ミタル事實アル以上ハ其申込ノ媒介ヲ爲シタル者カ選舉人若クハ選舉運動者ナルト否トニ拘ハラズ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ノ犯罪ヲ構成ス

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ハ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ自身ニ金錢其他ノ利益ヲ供與シ若クハ供與ノ申込ヲ爲シタル者ハ勿論他人ヲ介シテ間接ニ其供與又ハ供與ノ申込ヲ爲シタル者ヲモ包含ス

○他人ニ委託シテ選舉人ニ對シ現ニ利益ノ供與又ハ供與ノ申込ヲ實行セシメタル以上ハ衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ノ犯罪ヲ構成ス而シテ受託者カ委託者ノ名義ヲ以テ其申込ヲ爲シタルト自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シタルトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○衆議院議員選舉法第八十七條第一號ニ所謂供與トハ金錢物品等ヲ提供贈與スルコトヲ意味シ其申込トハ他人ニ對シ供與ノ意思ヲ表示シタルコトヲ云ヒ其申込ヲ承諾シトハ供與ヲ受クヘキコトノ意思ヲ表示シタルコトヲ云ヒ又其周旋勸誘トハ當事者ノ間ニ介シテ供與ヲ受ケンコト

衆議院議員選舉法

三六

一八一

三六

二五〇

三六

二五〇

三六

二五〇

ヲ斡旋盡力シテ之ヲ承諾スルニ至ラシムヘキ行爲ヲ指稱ス而シテ此等ノ意味ヲ顯ハス爲メ右等ノ語辭ヲ使用スルハ一般ニ行ハル、所ナリトス

三六

一四〇四

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ニ所謂選舉運動者ニ對スル金錢ノ供與トハ報酬ノ意味ヲ以テスル供與ヲ指稱セルモノトス從テ車馬賃飲食宿泊料ノ如キ選舉運動ノ爲メ必要ナル實費ノ供與ハ之ニ包含セス

三七

四六六

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ニハ選舉ニ關シ酒食遊覽等其方法及ヒ名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者トノミアリテ人ニ付キ別ニ何等ノ制限ナシ從テ何人ト雖モ選舉ニ關シ右等ノ所爲アリタルトキハ同條項ニ該當スヘキモノニシテ單ニ選舉人ノミニ限ルニ非ス

三五

三三

○衆議院議員選舉ニ關シ一席ニ於テ數名ヲ饗應シタル所爲ハ饗應ヲ受ケタル方面ヨリ觀察スレハ各自ニ一罪ヲ構成スヘキモ饗應ヲ爲シタル者ハ單ニ一罪ヲ構成スルニ止マリ數罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

三五

三三

○衆議院議員選舉法第八十七條第二項ノ追徴ハ本刑ニ附隨セル一種ノ懲罰ナルヲ以テ苟クモ同條ノ罪ヲ犯シ給與ノ金圓ヲ費用シタル以上ハ此

處分ヲ受クヘキモノトス而シテ其費用シタル金圓ノ出所如何ハ之ヲ問フノ要ナシ

三七

一五七六

第九十七條 當選ヲ妨ケルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

○新聞發行兼編輯人ニシテ其新聞ヲ利用シ衆議院議員候補者ノ當選ヲ妨ケル目的ヲ以テ虛偽ノ事項ヲ掲載シテ世ニ公ニシタル所爲ハ衆議院議員選舉法第九十七條前段ニ該當ス

三六

五六七

第二百條 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス

○衆議院議員選舉法違反ニ因リ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ニ對スル公權停止ノ期間ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

三五

八四

○選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ其刑ノ禁錮タルト罰金タルトヲ問ハス衆議院議員選舉法第二百條ニ依リ一定ノ期間選舉人被選舉人タルコトヲ禁スヘキモノトス而シテ犯人カ現ニ選舉權若クハ被選舉權ヲ有スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

三六

一〇九二

(同五百) 衆議院議員選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ其禁錮ノ刑タルト罰金ノ刑タルト

ヲ問ハス衆議院議員選舉法第百二條ノ制裁(選舉權被選舉權ノ停止)ヲ受クヘキモノトス
○衆議院議員選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニ對シ衆議院議員選舉法第百二條ヲ適用スルニハ犯人カ現ニ選舉權又ハ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤヲ區別スルノ要ナシ

第百十一條 本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス但シ北海道(札幌區、函館區、小樽區ヲ除ク)沖繩縣ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ施行ノ期日ヲ定ム

○衆議院議員選舉法第百十一條ニ「本法ハ次ノ總選舉ヨリ施行ス」トアルハ次ノ總選舉ニ關スル行爲ニシテ同法ノ規定ニ該當スルモノニ對シテハ法例第一條第一項前段ノ規定ニ拘ハラヌ直ニ施行スルノ旨趣ナリトス

○衆議院議員選舉法第百十一條ニ「本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス」トアルハ法例第一條ノ例外ニシテ次ノ總選舉ニ關スル行爲ニ付テハ直ニ施行セラル、ノ律意ナリトス從テ該法ノ頒布以後ニ係ルモ總選舉ニ關セサル補闕選舉等ノ如キ場合ニ在テハ尙ホ舊選舉法ニ支配セラルヘキモノトス

○衆議院議員選舉法ハ次ノ總選舉並ニ其後ノ選舉ノ爲メニ制定シタルモノナルコト明白ナルニ依リ苟クモ次ノ總選舉ニ關スル行爲ニシテ同法

三五

四

三七

一五七

三五

八

四

三五

〇

一三八

ノ規定ニ該當スルモノニ對シテハ其總選舉期日ノ前後ヲ問ハス直ニ之ヲ適用スヘキハ當然ナリトス
○新選舉法ハ公布ノ日ヨリ直ニ效力ヲ生スルモ舊選舉法ハ之カ爲メ全ク效力ヲ失フモノニ非ス

裁判所構成法

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

○陸軍軍人ノ就役前ニ爲シタル犯罪ト雖モ現ニ在役中ナルトキハ普通裁判所ニ於テ之ヲ管轄スヘキモノニ非ス

第六條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置シ檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述ブルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ
檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ
若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁

裁判所構成法

三六

二九

三六

二九

三七

一三九

裁判所構成法

三六一

判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命ジ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

○判事カ法律ノ規定ニ基キ檢事ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ特ニ其代理權アルコトヲ證明スヘキ書面アルヲ要セス

○判事カ檢事ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ其所屬官署ハ檢事局ナリトス

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用井ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

○支部ハ其地方裁判所ノ一部ニシテ獨立シテ一管轄ヲ爲スモノニ非ス(裁判所構成法第二十一條)從テ豫審終結決定ヲ以テ支部ノ公判ニ移シタル事件ヲ其本廳タル地方裁判所ニ於テ審判スルモ管轄違ナリト云フヲ得ス

三六

一〇七

○地方裁判所ノ支部ニ勤務スヘキ書記ニ付テハ裁判所構成法ノ規定上何等ノ明文ナケレハ支部設置ノ區裁判所書記ハ事務ノ分配ニ依リ當然其資格ヲ以テ支部ノ事務ヲ取扱フヘキ權限アルモノトス

三六

一一三

第一百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用井ルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ユ

○裁判所カ審問ノ際バイブ、ハンカチーフノ如キ我國一般常用ノ外國語ノ名詞ヲ雜ヘタリトスルモ之ヲ以テ裁判所構成法第百十五條ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

三五

七五〇

第三十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ケ

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

○休暇部ハ裁判所ノ休暇中民事刑事ノ訴訟ヲ審判スル裁判所ノ部局ニシテ通常ノ民事部及ヒ刑事部ニ代ルモノトス從テ休暇中ノ第一審刑事部カ其判決書ニ某地方裁判所刑事部ト表示スルモ違法ニ非ス

三六

二五八

民法

民法

三六二

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ賛成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責ニ任ス

○法人ノ理事其他ノ代理人若クハ其被用者カ職務ノ執行ニ付キ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキハ之ヨリ生スル損害ハ法人ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務アルモノトス從テ法人カ不法行爲ヨリ生スル損害賠償ノ責任ヲ負フヤ否ヤハ理事代理人又ハ被用者カ其職務ノ執行上他人ノ權利ヲ侵害シタルヤ否ヤニ因リテ定マルモノニシテ理事代理人又ハ被用者ノ故意若クハ過失ハ直ニ法人ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス

第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効トス

○日本ノ船舶ハ日本臣民ノミ所有シ得ヘク外國人ハ日本船舶ノ單獨ノ所有者タルコト能ハサルハ勿論日本船舶ノ共有者トシテ其持分ヲモ所有スルコト能ハス(船舶法第一條)從テ日本臣民カ其所有スル船舶ヲ日本ノ船舶トシテ外國人ト共有スヘキ契約ヲ爲スモ其契約ハ國法上日本船舶タルノ資格ナキ内外人ノ共有船舶ヲ日本船舶タラシムルノ效力ヲ生セサルノミナラス公益上ノ理由ニ基ク國法ノ禁令ヲ回避スルヲ目的トス

三六

一五七

ル不法ノモノナレハ所謂公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ニ該當シ全然無効ニシテ何等ノ效力ヲ生セサルモノトス

第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○人ヲ欺罔シテ假裝ノ賣買ヲ爲スモノト誤信セシメ土地ヲ騙取シタル場合ニ於テハ其賣買ハ當事者ノ知悉セル虛偽ノ意思表示ニ出テタルモノナルヲ以テ當事者間ニ在テハ絶對ニ無効ナリトス

○甲者カ乙者ノ所有ニ屬スル土地ヲ買受クルニ當リ丙者ノ所有名義ト爲シタル場合ニ於テ丙者カ擅ニ之ヲ丁者ニ賣却スルモ丁者ニシテ善意ナル以上ハ民法第九十四條第二項ニ依リ其土地ノ所有權ヲ保護スルコトヲ得ヘク丙者ノ犯罪ノ爲メニ何等ノ損害ヲ被ムルコトナシ從テ丁者ハ被害者ニ非ス

第九十五條 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

○架空ノ事實ヲ構造シ之ニ對シテ金員ヲ交付セシメタルトキハ被害者ハ無原因ニテ金員ヲ交付シタルコト、爲ルヲ以テ意思表示ノ要素ニ錯誤アリタルモノトス從テ其意思表示ハ當然無効ナリ

三六

一六一

三七

一〇三

三六

八八〇

三六

五五

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其實ヲ知リタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得
詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

同主旨判例
三二年六卷
六頁

○意思表示カ詐欺取財ノ手段タル場合ト雖モ尙ホ意思表示トシテ其效ヲ生シ唯被害者ニ於テ詐欺ヲ理由トシ之ヲ取消スコトヲ得ルニ過キス從テ詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ノ效力ニ關スル民法第九十六條末項ノ規定ハ此場合ニ於テモ適用セラルヘキヲ以テ取消ノ效果ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○名ヲ契約ニ假託シテ爲シタル詐欺取財ニ付キ數人ノ共犯者アル場合ニ單ニ其中ノ或者ノミ契約當事者トシテ意思ノ表示ヲ爲シ他ノ者ハ直接ニ其契約ニ關與セザリシトキハ契約取消ノ意思表示ハ契約ノ當事者トシテ意思ノ表示ヲ爲シタル犯人ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ以テ足ル從テ自餘ノ犯人ニ對シテ之ヲ爲スノ要ナシ

○詐欺ニ因ル意思表示ニ基キタル取消ノ善意ノ第三者ニ對抗シ得ルヤ否ヲ決スルニハ先ツ行爲ノ取消アリタルヤ否ヲ確定スルヲ要ス

○如上ノ場合ニ於テ善意ノ第三者ハ其取消アリタルコトヲ主張スルヲ妨

三六

八四九

三六

二四七九

三七

二九六

ケス

○詐欺取財ノ被害者カ犯人ニ對シ明カニ契約ヲ取消ス旨ノ意思ヲ表示セサルモ其目的物件ノ登記抹消ヲ請求スルハ即チ登記原因タル契約ヲ存在セシメサルノ意思ヲ表白シタルモノニ外ナラス

第九十七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追認ヲ得ザリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責任ス

前項ノ規定ハ相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セザリシトキハ之ヲ適用セ

○代理權ナキ者ト雖モ代理權アリトシテ契約ヲ爲シタルトキハ履行又ハ損害賠償ノ責任スルヲ以テ本則トス從テ此等ノ證書ヲ以テ形式上無効無價值ノ物ト云フヲ得ス

第九十五條 物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス
○土地所有者ヲシテ其所有地内ニ井泉ヲ穿ツコトヲ得サラシムル權利ハ現行法上地役權ノ設定ニ依リテ之ヲ創設シ得ルノ外物權トシテ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニ非ス又此種ノ慣習ハ其效力ヲ有セス

第七十七條 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ

三七

二九六

三七

二四〇四

三五

六七

三七

四二九

爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○民法第七十七條ニ所謂「第三者」トハ不動産其物ノ上ニ行ハル、特種ノ權利ヲ有スルカ爲メ不動産上物權ノ得喪變更ニ付キ利害關係ヲ有スル者ノミヲ指稱スルモノトス從テ不動産其物ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル者ハ同條ニ所謂第三者ノ中ニ包含セス

第三百九十二條 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

○民法第九十二條ハ占有物カ占有ノ當初ヨリ動産タリシ場合ノ規定ナリトス從テ其占有物ニシテ當初不動産タリシ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

第三百九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

○民法第九十三條ノ盜品又ハ遺失物中ニハ當然通貨ヲ包含ス

○金錢ノ如キ通貨ニシテ盜品タリシ場合ニ於テハ常ニ他ノ動産ト均シク被害者ニ其回復請求ノ權利アルコトハ民法實施前ニ於テ認めラレタル判例ナリトス

○冒認販賣ハ詐欺取財ノ一種ニシテ盜ト其性質ヲ同ウセス從テ民法第百

三五

七五九

三五

九

五

三五

九

五

三五

九

五

九十三條ニ所謂盜品ニハ冒認販賣セラレタル物件ヲ包含スルコトナシ
○民法第九十三條ハ盜品若クハ遺失物ニ於ケルカ如ク權利者ノ意思ニ反シテ占有ノ喪失アリタル場合ニノミ適用セラルヘキモノトス從テ取締役カ其職務上保管セル財物ヲ不正ニ處分シタル場合ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

三六

三二六

九十三條ニ所謂盜品ニハ冒認販賣セラレタル物件ヲ包含スルコトナシ

三七

九四八

第三百四十三條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産カ附合ニ因リ毀損スルニ非サレハ之ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成物ノ所有權ハ主タル動産ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第三百四十四條 附合シタル動産ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動産ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノ割合ニ應シテ合成物ヲ共有ス

第三百四十五條 前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

○數人ヨリ騙取シタル金錢ノ一部カ被告ノ手ニ存在セシ爲メ贓物トシテ差押ヘラレタルトキハ被害者ハ民法第二百四十五條ノ規定ニ從ヒ騙取セラレタル金額ノ割合ヲ以テ之ヲ共有スルモノトス

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得
債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分ニ限り之ヲ取立ツルコトヲ得

三五

三三

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權者ハ第三債務者ナシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス

債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有ス

○權利質權者ハ債務者ニ代リ質權ノ目的タル債權ヲ處分シ得ヘキ權利アルニ過キスシテ條件附債權讓受ノ效果ヲ取得スルモノニ非ス

第四百十九條

金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス

○不法行為ニ因ル賠償ノ遲延ヨリ生スル損害賠償額ハ法定利率ニ依リ之ヲ算定スヘキモノニシテ法定利率ハ年五分ナリトス

第三編 第二章 第三節 賣買

○名ハ土地賣買ナルモ其實犯罪ノ手段タルニ於テハ其賣買ハ絕對ニ無効ニシテ民法上何等ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ此無効ノ賣買ニ基キ爲サレタル登記モ亦無効ナリトス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

○受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利ヲ取得シタル場合ト雖モ當初ヨリ委任者ノ爲メニスルノ契約ナルトキハ其取得ト同時ニ該權利ハ當然委任者ニ歸屬シ毫モ特別ノ意思表示ヲ爲スノ要ナキモノトス

第三編 第二章 第十一節 寄託

○受寄ノ金錢ヲ費消シタル者ハ其金錢カ何人ノ所有ニ屬セシヤヲ問ハス寄託者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フニ過キス從テ其眞所有者ハ被告ニ對シテ賠償ヲ要求スルノ權ナシ

第七百八條

不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

○詐欺取財ノ被害者ト雖モ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○民法第七百八條ノ規定ハ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行為ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セラルヘキモノナリ

第七百九條

故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損

三六

一八四三

三六

一八四三

三七

六七四

三八

四九七

三六

三二六

三七

三八九

三五

五五

反對判例三
四年四卷一
七頁

反對判例三
四年四卷一
七頁

害ヲ賠償スル責任ス

○法律ニ認許スル方法ニ依ラスシテ私力ヲ以テ擅ニ他人ノ行爲不行爲ヲ強制スルハ縦合實體上ニ於テ其行爲不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ有スル場合ト雖モ他人ノ權利ヲ侵害スル不法ノ行爲ナリトス

○甲カ權利ナクシテ乙ノ所有地内ニ建設シタル土藏ニシテ甲ニ於テ之ヲ收去スルノ義務ヲ負フ場合ニ在テハ其土藏ハ一ノ不動産トシテ何等ノ價值ヲ有スルモノニ非ス從テ縱令乙ニ於テ不法ニ之ヲ取毀チタルニモセヨ乙ニ對シ其價格全部ノ賠償ヲ命シタル判決ハ不法ナリ

○民事訴訟費用法ニ損害賠償ノ率ヲ定メタルモノニ付テハ訴ノ提起ニ關スル過失ヲ原因トシテ其規定ノ範圍外ニ於ケル賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

○他人ノ特許權ヲ侵犯シ其特許品ヲ偽造スルモ之カ爲メニ損害ヲ生セシメサル以上ハ賠償ヲ爲スノ責任ナシ

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財產權ヲ害シタル場合トナリハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責任スル者ハ財產以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

○夫ハ妻ニ對シ貞操ヲ守ラシムル權アルモノナレハ其妻ト姦シタル者ハ

本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノナリ從テ夫權ノ損害ニ對スル賠償ヲ爲スノ義務アルモノトス

第七百二十三條 他人ノ名譽毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

○登録商標ニ類似セル商標ヲ同種ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣スルトキハ之カ爲メ商標主ニ財産上ノ損害ヲ加フルコトアルヘキモ其品質劣ラサル限りハ被害者ノ名譽ヲ毀損シタルモノト云フヲ得ス

民法施行法

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

○民法施行法第二十八條ハ神社寺院等ヲ以テ人格ナキモノト爲シタル趣旨ニ非スシテ神社寺院等ハ人格アルモノニ對シテハ當分ノ内法人ニ關スル民法ノ規定ヲ適用セストノ趣旨ナリトス

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○民法施行法第三十七條ハ從來ノ慣習上登記ヲ要セスシテ第三者ニ對抗

三六

一四五

三七

五四七

三六

四四九

三六

七六〇

三七

七六〇

三七

四〇一

三七

一六六

スルコトヲ得タルモノ即チ地上權永小作權ノ類ニ付テ規定シタルモノニシテ所有權保存登記ノ如キハ同條ノ目的トスル所ニ非ス從テ保存登記ヲ爲サル所有者ヲ目シテ同條ノ手續ヲ怠リタル過失者ナリト云フヲ得ス

商法

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス

○白紙委任狀ヲ使用シ記名株券ノ處分及ヒ流通ヲ容易ナラシムル商慣習ハ廣ク實際ニ行ハレ法律の效力ヲ有スルモノトス

第五百五十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス
株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

○株金ノ拂込ハ必ス現金ヲ以テスルコトヲ要シ約束手形ノ如キ債權ヲ以テスルコトハ商法ノ認許セサル所トス

第五百六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

○株式會社ノ業務執行ニ關シ不法行爲アル場合ニ於テハ其行爲ニ與リタル者ノミ之カ責ニ任スヘキモノトス

第四百七十條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス
第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス
○株式會社ノ取締役ハ行爲能力ヲ有セサル會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル法定代理人ナリ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ
變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス
偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

○手形ヲ偽造シタル者ハ善意ノ取得者ニ對シ手形上ノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス故ニ偽造手形ヲ受領シタリトテ未タ損害ヲ被ムリタルモノト云フヘカラス

第四編 第二章 第二節 裏書

○裏書ハ獨立ナル手形行爲ニシテ他ノ手形行爲ト分離シ有效ニ成立スルコトヲ得從テ一旦有效ニ成立セル裏書ハ原手形ノ振出人ノ署名偽造ナルカ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス

三六	三七	三八	三六
八五二	六七二	三二六	三二六

三七	三六	三六
二二七	三三六	二二六

第四編 第三章 約束手形

○甲者カ乙者ヲ欺罔シテ約束手形ヲ騙取シ之ヲ丙者ニ讓渡シタル場合ニ於テ乙者カ丙者ノ請求ニ因リ示談ノ上手形金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ニシテ手形上ノ債務ヲ消滅セシムルモノトス而シテ乙者ハ丙者ヲ以テ正當ノ所持人ナリト誤信シ之ニ對シテ支拂ヲ爲シタリトスルモ此事實ハ辨濟ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

商法(明治二十三年法律第三十二號)

第五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後中間ハ履行スル意ヲキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一分ヲ藏匿シ轉讓シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス

○破産宣告ヲ受ケタル債務者カ其以前國稅ヲ遁脱セントシ爲メニ債權者ニ損害ヲ加ヘタル場合ト雖モ既ニ國稅徵收法違反事件トシテ確定判決ヲ經タル以上ハ再ヒ詐欺破産ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第五十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ

有罪行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

○商法第五十二條ニ所謂會社ノ業務擔當ノ任アル社員トハ業務擔當ノ權限ヲ有スル社員ノ謂ナリトス從テ其權限ヲ有セサル社員ニシテ業務ヲ執リタル事實アリトスルモ商法第五十條同第五十一條ノ罰則ヲ適用スヘキモノニ非ス

○債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ其決定ノ確定シタル事實アル以上ハ其決定ノ果シテ眞實ニ適合スルヤ否ヤハ過怠破産罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシトス

○商法第五十二條ニ因リ有罪破産ノ責罰ヲ受クヘキ者ハ會社カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ其支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ニ於テ債權者ヲ害スヘキ不當ノ行爲ヲ爲シタル代表者ナリトス從テ既ニ不當ノ行爲ヲ爲シタル以上ハ會社カ破産宣告ヲ受ケタル當時其代表者ニ非サリシトキト雖モ自ラ爲シタル不法行爲ノ責罰ヲ免ル、ヲ得ス

○商法第五十二條ニ所謂有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケタル者トハ破産ノ宣告ヲ受ケタル者カ其宣告ノ前後ヲ問ハス履行スルノ意ナキ義務ヲ負擔シ其他同法第五十條ニ列舉セル行爲ヲ爲ス場合ニ於テ其行爲ニ助力シタル者ヲ指稱ス而シテ其行爲カ破産ノ目的ニ出テタルト否ト又

三六

四四一

三七

一一四

三六

二九四

三六

一五九

三六

一五九

直ニ破産ヲ招キタル原因ト爲リタルト否ト又其助力者カスル目的結果等ヲ知ルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

商法施行法

第九十四條 私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス(明治三十三年法律第六十四號ヲ以テ私設鐵道法發布ニ因リ消滅)

○商法施行法第九十四條ハ同法第九十三條ノ例外規定ナリトス從テ私設鐵道株式會社ニ舊商法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ場合ニ於テ其行爲カ私設鐵道條例改正以前ニ生シタルモノナルトキハ右例外規定タル第九十四條ニ依リ舊商法ヲ適用スヘキモノニシテ第九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス

民事訴訟法

第三十八條 忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス

第五十條

然レトモ總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キトキニ限リ左ノ規定ヲ適用ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻撃及ヒ防禦ノ方法(證據方法ヲ包含ス)ハ他ノ共同訴訟人ノ利益ニ於テ效ヲ生ス

共同訴訟人中ノ或ル人カ争ヒ又ハ認諾セサルトキト雖モ總テノ共同訴訟人カ悉ク争ヒ又ハ認諾セサルモノト看做ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス

然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠セザリシ場合ニ於テ爲ス可キ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタル共同訴訟人ハ何時タリトモ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

○共同不法行爲者ニ對シテ連帶ノ損害賠償ヲ請求スルモ其訴訟ハ民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ非ス

○甲者カ乙者ニ賣却シタル土地ヲ冒認シテ更ニ之ヲ丙者ニ販賣シ丙者ハ其所有權ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ乙者ヨリ甲者及ヒ丙者ヲ共同被告ト爲シ此事實ヲ請求ノ原因トシテ登記ノ抹消ヲ要ムル事件ハ民事訴訟法第五十條ニ所謂必要的共同訴訟ノ性質ヲ有スルモノトス

第二百一十一條 裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一分ノ裁判カ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マル可キ權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止ス可

三七

八三六

三五

五

二二七

三五

二

四

三六

五三六

三六

四五一

○特許權侵害ニ關スル民刑訴訟ノ進行中特許無効ノ訴カ特許局ニ提起セラレタルトキハ通常裁判所ハ其訴訟ヲ中止シ特許局審判ノ結了ヲ待テ裁判ヲ爲サ、ルヘカラス

第五十一條

送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場所、年月日時、方法及ヒ受取人ノ受取證據ニ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス
受取人受取ヲ拒ミ若クハ受取證ヲ出スコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ
第四百十三條第三項ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル吏員ノ報告書ヲ以テ送達ノ證ト爲スニ足ル

○送達證書ニハ送達吏ノ署名捺印ヲ爲スヲ以テ足り必スシモ其身送達吏タルコトヲ記載スルノ要ナキモノトス從テ送達證書ニ執達吏代理タルコトノ記載ナキモ無効ニ非ス

第一編 第三章 第五節 訴訟手續ノ中斷及ヒ中止

○權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ私訴事件ニ於テ共同訴訟人ノ一名ニ中斷ノ原因ヲ生シタルトキハ其事件全體ニ付キ訴訟手續ヲ中斷スルモノトス
第四百十三條 訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ原告若クハ被告カ死亡シ又ハ訴訟

三六

三〇〇

三五

三八九

三七

一六七九

訟能力ヲ失ヒ又ハ法律上代理人カ死亡シ又ハ其代理權カ消滅スルトキハ委任消滅ノ通知ニ因リ訴訟手續ヲ中斷ス

訴訟手續ノ受繼ニ付テハ第七十八條、第八十條、第八十一條ノ規定ニ從テ

○民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ該事件ノ第二審繫屬中ニ死亡シタルトキハ縱令委任消滅ノ通知ナキモ其訴訟手續ハ控訴判決ノ言渡以後中斷セラル、カ故ニ民事原告人ハ該判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

三六

三〇〇

○民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ其事件ノ第二審繫屬中ニ死亡シタルトキハ控訴判決ニ對スル原告人ノ上告期間ハ訴訟手續受繼届ノ送達ノ日ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス

三六

三〇三

第二編 第一審ノ訴訟手續

○債務者カ強制執行ヲ免ル、爲メ公正證書ヲ以テ其所有財産ニ付キ假裝ノ賣買契約ヲ締結シタル場合ニハ債權者ハ強制執行ノ開始前債務者及ヒ讓受人ニ對シテ契約無効確認ノ訴訟ヲ提起シ得ルモノトス

三六

一三二九

第二百六條

妨訴ノ抗辯ハ本案ニ付テノ被告ノ辯論前同時ニ之ヲ提出ス可シ

左ニ掲グルモノヲ妨訴ノ抗辯トス

第一 無訴權ノ抗辯

第二 裁判所管轄違ノ抗辯

民事訴訟法

第三 權利拘束ノ抗辯

第四 訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯

第五 訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辯

第六 再訴ニ付キ前訴訟費用未済ノ抗辯

第七 延期ノ抗辯

本案ニ付キ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル後ハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得サルモノナルトキ又ハ被告ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限り之ヲ主張スルコトヲ得

○受寄者カ擅ニ寄託物タル土地ヲ他人ニ賣渡シタル場合ニ於テ寄託者ヨリ民事ノ訴ヲ提起シ所有權移轉登記ノ抹消ヲ求メタル後更ニ民事原告人トシテ其登記抹消ノ私訴ヲ提起シタルトキハ訴訟ノ原因ハ孰レモ委託契約ニ存スルヲ以テ民事被告人ハ權利拘束ノ抗辯ヲ主張シ得ルモノトス

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ

抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可シ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條、第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス
再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間ノ滿了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタ

三

一〇五

ル期間内ハ抗告ヲ爲スコトヲ得
前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不變期間内ニ受訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認メサルトキハ之ヲ抗告裁判所ニ送付ス可シ

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限り其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

○執達吏カ債務者ノ有體動産ヲ差押ヘテ之ヲ保管スルモ其競賣賣得金ヲ債權者ニ配當セサル以上ハ債權者ハ未タ財産上ノ利益ヲ受ケタルモノト云フヲ得ス

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カラルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

○動産ノ強制執行ニ關スル民事訴訟法第五百七十九條ニハ「執達吏賣得

三五

二

四一

三七

一八三五

金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス」トアリ
テ從テ執達吏カ動産ノ賣得金ヲ領收スルト同時ニ其金錢ハ債權者ニ交
付セラレタルト同一ノ效力ヲ生シ其瞬間ヲ以テ該金錢ハ債權者ノ所有
ニ歸シタルモノトス

第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存ス
ル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモ
ト看做ス

○甲者カ乙者ニ對シ債權アルコトヲ主張シ勝訴ノ判決ヲ受ケ其執行トシ
テ第三債務者ニ對スル債權ヲ差押ヘ之カ轉付命令ヲ受ケタル場合ニ於
テ縱令甲者ノ債權ハ假裝ナリトスルモ之カ爲メ既ニ宣言セラレタル判
決及ヒ命令ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ民事訴訟法第六百一
條ニ依リ乙者ハ甲者ニ辨濟ヲ爲シタルモノト看做サルヘク從テ乙者ハ
該命令ニ因リ其債權ヲ失ヒタルモノトス

陸軍治罪法

○現役ニ在ル軍人トハ現ニ隊伍ニ在リテ兵役ノ任務ニ服従スル者ヲ謂フ
從テ未タ入營セサル者ハ縱令召集命令ヲ受ケテ或隊伍ニ編入セラレタ

ル場合ト雖モ尙ホ現役ノ軍人ニ非ス

家資分散法

○差押ハ強制執行處分ナルヲ以テ既ニ差押ニ著手シタルモ差押フヘキ財
産ナク從テ該處分ヲ遂行スルコト能ハサルトキハ家資分散法第一條ニ
所謂強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スルノ資力ナキモノニ該當ス

府縣制

○府縣參事會ハ府縣ノ行政執行機關ニ非ス從テ府縣參事會員ハ公吏ニ非
ス

○縣當局者ヨリ議案トシテ參事會ニ提出シタル以上ハ其議案カ委任事項
タルト否ト又參事會ノ職務權限ニ屬スルト否トヲ問ハス縣參事會ハ之
ヲ調査シ相當ノ議決ヲ爲スヘキ職責ヲ有ス從テ縣參事會員ハ其議案調
査ノ職責ナキモノト云フヲ得ス

○府縣吏員ハ府縣制第七十五條ノ規定ニ基キ置クモノニシテ雇傭關係ニ
依リ雜務ニ從事スル雇員ニ非ス從テ純然タル公吏ナリトス而シテ岡山
縣工手ナルモノハ右府縣制ノ規定ニ基キ訓令ヲ以テ定メタル職制上ノ

三六

四七

三七

四九

三六

二四

三六

七七

三六

三〇

三七

四三

職員ニシテ公吏ナリ

○府縣制第四十條ニ「衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス」トアルハ當ニ其當時施行セラレタル法律ヲ準用スルニ止マラスシテ尙ホ將來ニ於ケル衆議院議員選舉ニ關スル罰則ニモ從フノ法意ナリトス

郡制

○選舉人ノ爲シタル投票カ選舉規則ニ照シ果シテ形式上有效ノモノナルヤ否ヤハ投票ノ效力ニ關スル問題ニシテ選舉罰則違犯罪ノ成立ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ從テ其有效無效ニ付キ説明ヲ爲サ、ルモ不法ニ非ス

市制

○戶籍及ヒ身分登記ノ事務ハ廣義ニ於ケル國ノ行政ニ關スルモノニシテ市制第七十四條第一項第三號並ニ町村制第六十九條第一項第三號ニ所謂國ノ行政事務ニ外ナラス從テ監督官廳ノ許可ヲ得タル上ハ市參事會員ノ一名又ハ町村助役ヲシテ之ヲ分掌セシムルコトヲ得ルノミナラス市長又ハ町村長故障アルトキハ右ノ吏員等ハ之ヲ代理シテ該事務ヲ管

掌スヘキ權限ヲ有ス

町村制

○村役場書記ハ町村制第七十二條ノ規定ニ依リ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌スルモノナレハ町村長ノ命アルトキハ町村長ヲ代理シ又町村長兼務ノ收入役ノ代理ヲ爲スノ職務ヲ有ス從テ書記ニシテ收入役ノ代理中其徵收シタル手數料ヲ保管セル際之ヲ竊取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス
○町村組合ハ公法人ニシテ町村ナル公法人ト均シク自治團體ニ屬ス從テ之カ管理人又ハ其代理人トナリ行政事務ノ執行ヲ掌ル者ハ町村長又ハ助役ト均シク公吏ナリトス

○町村ノ收入ヲ受領スルハ一ニ町村收入役ノ權限ニ屬ス（町村制第六十二條第一項同第七十一條）從テ町村長ハ町村制上特ニ收入役ノ權限ニ歸セシメアル町村收入ノ領收ニ關スル事項ニ付テハ外部ニ對シテ町村ヲ代表スルノ權限ヲ有セサルモノトス
○町村内ノ區カ其固有ノ財産ヲ所有スルトキハ其區ハ之ヲ一ノ法人トシテ其財産ノ主體タラシムルモノトス從テ財産ヲ所有スル町村内ノ區ハ獨立ノ法人ヲ組織シ之ヲ組織スル個々ノ住民ト其人格ヲ異ニスルコト

三六	三五	三七	三六	二〇九
二〇六	二二八	二六五	二五三	二二四

ハ町村制ノ精神ナリトス

○區ノ里道ハ一ノ營造物ニシテ其改修ニ關スル費用ハ區ノ支辨スヘキモノナルヲ以テ區會ノ決議スヘキ事項ニ屬ス而シテ村長ハ町村制第百十五條ニ依リ之ヲ管理スルノ職責ヲ有スルモノトス

○戶籍及ヒ身分登記ノ事務ハ廣義ニ於ケル國ノ行政ニ關スルモノニシテ市制第七十四條第一項第三號並ニ町村制第六十九條第一項第三號ニ所謂國ノ行政事務ニ外ナラス從テ監督官廳ノ許可ヲ得タル上ハ市參事會員ノ一名又ハ町村助役ヲシテ之ヲ分掌セシムルコトヲ得ルノミナラス市長又ハ町村長故障アルトキハ右ノ吏員等ハ之ヲ代理シテ該事務ヲ管掌スヘキ權限ヲ有ス

○村立小學校生徒ノ運動場ヲ設置スルカ如キハ町村制第三十三條第二號ニ所謂町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ナレハ生徒ノ運動場ニ充ツル爲メ御料林拜借ノ事ヲ議決スルハ村會ノ權限ニ屬スヘキモノトス從テ其議決ニ干與セル村會議員ノ公務上ノ行動ニ關シ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ明治二十二年法律第二十八號第二條ノ犯罪ヲ構成ス

○町村學校組合規約ニ組合ノ事務取扱ニ關シテハ町村制ニ依ルヘキコトヲ定メタル場合ニハ組合ノ爲メニ作成スル帳簿ハ總テ組合長タル町村

長ニ於テ保管ノ責ニ任セサルヘカラス

○町村制第六十八條第二項第九號ニ所謂委任事務ニ付テハ法文上何等ノ制限ナケレハ町村長カ府縣制ノ規定ニ基キ投票管理者トシテ投票所ノ事務ヲ管理シ又ハ投票録ヲ作成シテ投票ノ顛末ヲ報告スル如キ選舉事務ト雖モ亦之ニ包含ス故ニ町村助役ニ於テ該事務ヲ代理シ得ヘキハ當然ナリ

○町村收入役ハ町村制上獨立ノ職務權限ヲ有シ町村長ト并立テ町村ノ事務ヲ管掌スルモノニシテ唯出納事務ニ付キ町村長ノ監督ヲ受クルニ止マリ其指揮命令ヲ受ケテ該事務ヲ處理スルモノニ非サレハ必スシモ町村長ノ命令ニ聽クノ義務ナシ

○町村長又ハ助役カ上司ヨリ何等ノ指令ナキニ拘ハラズ擅ニ或事務ノ委託ヲ受ケ之ヲ處理スルハ其職務權限以外ノ行爲ニ屬スルヲ以テ縱令町村長又ハ助役ノ名義ヲ用キテ文書ヲ作成スルモ其職務上作成シタル公文書ナリト云フヲ得ス

○土地臺帳ニ關スル町村役場ノ事務ヲ擔任スル者ハ登記濟通知書ノ受領並ニ其保存ニ付テモ亦責任ヲ負フモノトス

三

一〇三五

三

一三六一

三

一六五三

三

一七八

三

一五七

三

二二六

三

三九三

三

五〇五

三

二八三

市町村會議員選舉罰則

○市町村會議員選舉罰則第二條第二項ニ其授與ヲ受クル者云々トアルハ其第一項ノ目的ヲ以テ授與ヲ受ケタル者ヲ處罰スルノ趣旨ナリトス

○市町村會議員選舉罰則第二條ニ所謂他人カ果シテ被選資格ヲ有スルヤ否ヤハ該罰則違犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

郵便法

○郵便法第二條ノ罪ハ信書ノ送達ヲ以テ營業ト爲シタルニ依リ成立ス而シテ其送達賃金ヲ費消シタル事實ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ之ヲ認定シタル證據ヲ明示スルヲ要セス

○郵便電信局ノ通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ニ非ス從テ通信事務員ニシテ其監守ノ責アル郵便物ヲ竊取シタル所爲ハ郵便法第五十一條ニ依リ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘ處斷スヘキモノニシテ監守盜ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○郵便法第五十二條ノ郵便物ヲ受取人ニ非サル者ニ交付シ又ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル行爲ハ其行爲カ通信阻害ノ目的ニ出テタル場合ニ非サ

レハ之ヲ罰セサルノ法意ナリトス

○郵便法第二條ノ信書トハ通信文ヲ包含スル文書ヲ指稱ス而シテ通信トハ特定ノ人ニ對シ自己ノ意思ヲ表示シ若クハ或事實ヲ通知スルノ謂ナレハ文書ニシテ特定ノ人ニ對シ發信者ノ意思ヲ表示シ又ハ事實ヲ通知スルモノナル以上ハ同法ノ信書ニ該當ス

○郵便法第二條ニ所謂信書トハ通信文ヲ記述シタル書面ノ義ナルヲ以テ苟クモ差出人ヨリ名宛人ニ對シ意思ノ傳達ヲ媒介スヘキ文言ヲ記載セル書面ハ其何タルヲ論セス總テ之ヲ包含スルモノトス而シテ其書面ニ封皮ヲ施スト否ト將タ開封ノモノナルト否トハ信書タル性質ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○郵便法第二條ニ所謂運送營業者トハ公衆ノ委託ヲ受ケ物品ヲ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ運送スルヲ以テ日常ノ業務ト爲ス者ヲ指稱シ其運送ノ目的タル物品ノ種類運送區域ノ大小又ハ運送機關ノ有無如何ハ之ヲ問フノ要ナキモノトス

不動産登記法

○刑事詐欺ニ因リ不動産移轉ノ登記アリタル場合ニ於テハ被害者ハ抹消

三六 二四

三七 三〇一

三七 三八一

三七 三八一

三五 五

二六

三七 六三

三五 五

三六 五

登記申請ノ意思表示ニ代ルヘキ判決ヲ求メ之ニ依リ抹消ノ手續ヲ實行シ以テ其權利ヲ回復シ得ルモノトス

移民保護法

○移民取扱人トハ移民ヲ募集シ又ハ其渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲スモノヲ謂フ(移民保護法第五條)而シテ渡航ノ方法ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ渡航者カ移民タルノ資格ヲ有スル以上ハ營業トシテ其渡航ヲ周旋シタルモノハ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタルモノトス

○營利ノ爲メ多數ノ移民ヲ募集シテ渡航セシメンコトヲ計畫シ數回繼續ノ事業トシテ之ヲ爲スノ目的ナリシトキハ偶々一回ニシテ中止シタルモ之ヲ以テ營業行爲ニ非スト云フヲ得ス從テ行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ此等ノ行爲アリタルトキハ移民保護法第二十三條ヲ適用處分スヘキモノトス

○移民保護法ニ所謂渡航ノ周旋トハ他人ノ渡航ニ關シ必要ノ手續ヲ爲ス行爲ヲ指稱シタルモノトス從テ苟クモ渡航手續ノ幾部ヲ行ヒタルトキハ其手續ノ如何ヲ問ハス同法第二十三條ノ犯罪ヲ構成ス

○移民保護法第二十九條ノ特別條約ニ基キ渡航スル移民トハ布哇政府ト

三六

五九七

三五

二

八六

三五

一〇

六

三五

一〇

一六二

契約ヲ爲シ渡航スル移民ノ謂ナレハ布哇ニ渡航スル移民ハ總テ該條約ニ因リ渡航スルモノト云フヲ得ス

三七

二〇七

○許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタルトキハ移民保護法第二十三條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其移民ノ正當移民タルト密航者タルトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

三八

一三〇

○移民取扱人カ行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ移民取扱ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ直ニ移民保護法第二十四條ノ犯罪ヲ構成ス從テ代理人タル者カ營業トシテ代理行爲ヲ爲シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

三六

一六四

國稅徵收法

○國稅徵收法第三十二條第一項ノ所爲ハ必スシモ滯納處分開始以後ニ係ルコトヲ要スルモノニ非ス然レトモ納税人ニシテ滯納處分ヲ受クルコトナケレハ國庫ニ對シ損害ナキヲ以テ滯納處分ノ開始ヲ待チ之ヲ處罰スルニ過キササルモノトス

三五

五

三二

○國稅代納義務者カ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニ財産ヲ藏匿脱漏シタルトキト雖モ其後滯納者ト爲リタル以上ハ國稅徵收法第三十二條ヲ

適用シ處斷スヘキモノトス

○國稅滯納處分法ニ依リ入札ノ方法ヲ以テ滯納者ノ財産ヲ公賣ニ付スル場合ニ於テハ其財産ノ所有權ハ收稅官吏カ開札ノ上最高入札者ノ何人ナルカヲ知リタルトキ直ニ該入札者ニ移轉スルモノニ非スシテ收稅官吏カ之ヲ落札者ト爲シ財産賣却ノ決定ヲ爲スニ因リ始メテ其入札者ニ移轉スルモノトス

○國稅徵收法第三十二條ハ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ヲ處罰スルモノナレハ其藏匿脱漏等ノ行爲カ滯納者ト爲リタル後ニ係ルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスコトナシ

(同書)

國稅徵收法第三十二條第一項ハ納稅者カ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルモノヲ罰スルノ趣旨ナリトス從テ法文ニ滯納者トアルモ之カ爲メ必スシモ滯納者ト爲リタル後ノミヲ罰スルノ趣旨ニ非ス

○納稅者カ國稅徵收法第九條ニ依リ督促ヲ受ケ指定ノ期限内ニ税金ヲ完納スルニ於テハ縱令藏匿脱漏等ノ行爲アルモ國庫ハ何等ノ損害ヲ受ケサルヘキヲ以テ同法第三十二條ヲ適用スルニハ納稅者カ藏匿脱漏等ノ

行爲前又ハ其後右ノ期限ヲ經過シ滯納者トナリタル事實アルコトヲ要ス

○納稅者カ税金ノ通脫ヲ圖リ其所有物ヲ賣却シ相手方ハ情ヲ知テ之ヲ買受ケタル場合ニハ納稅者ノ所爲ハ國稅徵收法第三十二條第一項ニ該當シ相手方ノ所爲ハ同條第三項ニ該當ス而シテ同法第十五條ハ政府ノ取消權ヲ規定シタルニ過キスシテ斯ノ如キ場合ニ第三十二條ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス

關稅法

○關稅法ハ其第七十五條ニ脱稅及ヒ脱稅ノ企圖ニ對シテハ刑罰ノ制裁ヲ付スヘキ旨ノ規定アルモ脱稅ノ目的タル貨物ノ賣買讓渡ニ對シテハ別ニ刑罰ノ制裁ヲ付スルノ規定アルコトナシ從テ脱稅ノ目的タル物件ノ賣買ハ何等ノ犯罪ヲ構成セス

○關稅法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ現ニ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬スルコトヲ要ス從テ判決當時ニ於テ既ニ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬セザリシトキハ之ヲ沒收スルヲ得サルモノトス

○關稅法第八十三條ニ依レハ關稅法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ稅法違反ノ

三六

一〇四九

三六

八二九

三七

一九四九

三七

一三六四

三六

一七六

三七

一三六四

三七

二八九

三五

五

二七二

制裁トシテ現物若クハ其價格ヲ以テ犯人ヨリ沒收又ハ徵收ノ處分ヲ爲スヘキモノニシテ國庫ハ必スヤ貨物ト其代表物タル價格トニ付キ何レカ其一ヲ犯則者ヨリ徵收シ之ヲ保有セサルヘカラサルノ法意ナリトス從テ犯則者數名アルトキハ國家ハ各犯則者ニ對シ其價格全部ノ納付ヲ要求スルコトヲ得ヘキモノトス

三五 一五八

間接國稅犯則者處分法

○間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ニ際シ云々トアルハ臨檢ノ場所ニ於テノミ犯則者及ヒ證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ得ルノ主旨ニ非スシテ臨檢ノ場所以外ニ於テモ臨檢ノ處分ニ引續キ有效ニ訊問ヲ爲スコトヲ得ルノ主旨ナリトス

三五 四一六

○間稅官吏カ間接國稅犯則者ニ對シ告發ヲ爲スニハ間接國稅犯則者處分法第十一條ノ通告ヲ爲シタル後犯則者カ其通告ノ旨ヲ履行セサルトキニ限ル

三五 六二〇

○間接國稅犯則者處分法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ識別シテ同法第十一條ノ通告ヲ爲サス直ニ犯則事件ヲ告發スルト否トヲ定ムルハ間稅官吏ノ職權ニ屬ス從テ同官吏カ右通告ヲ爲サス直

ニ之ヲ告發シタル以上ハ同法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルモノト認メタルコトハ自ラ明カナリトス

三六 七

○收稅官吏カ非現行犯ノ場合ニ於テ日沒後ニ至ルマテ臨檢搜索差押等ノ處分ヲ爲スハ間接國稅犯則者處分法第八條ニ違背スル行爲ナリトス從テ其處分ニ基キ作成シタル顛末書ハ無効ナリ

三六 三二

(同主旨)

收稅官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外日沒ヨリ日出マテノ間ニ於テ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス(間接國稅犯則者處分法第八條)從テ此規定ニ背キテ爲シタル處分ニ基キ作成シタル調査顛末書ハ無効ナリトス

三五 八〇八

○裁判所ハ稅務署長カ犯則者ニ通告シタル罰金額ニ拘束セラル、モノニ非ス從テ其罰金額ヨリ重キ罰金ヲ科スルモ違法ニ非ス

三六 五五九

○間接國稅犯則者處分法第三條ハ犯則者及ヒ其以外ノ人ニ對スル收稅吏ノ尋問ニ付キ何等ノ制限條件ヲ設クルコトナシ從テ其尋問ハ一ニ犯罪搜查ノ權アル收稅吏ノ機宜ノ處分ニ任シタルモノトス

三六 二二七

○間接國稅犯則者ニ對スル告發ハ收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ限ニ在ラス而シテ同法ニハ告發書ニ其作成ノ場所ヲ記載スヘキコトヲ命セサルヲ

以テ其記載ナキモ不法ニ非ス

○收稅官吏ノ作成スル書類ニ付テハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ其作成ニ關スル特別ノ規定アリテ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキモノニ非ス而シテ右處分法第十條ニハ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ其押捺ナキモ無効ニ非ス

○間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ於テ告發ヲ爲スノ權限ヲ有スル者ハ稅務管理局長若クハ稅務署長ニ限ル從テ此場合ニ於テ稅務屬ノ爲シタル告發ハ無効ナリ

同主旨判例
三二九年
九卷
九三頁

○稅務屬カ酒造稅法違反事件ヲ調査スル爲メ參考人ヲ尋問スル場合ニ於テハ法定ノ立會人ヲシテ立會セシムヘキモノニ非ス

○間接國稅犯則者處分法第十條ニハ顛末書ヲ關係人ニ示シタルコトヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ縱令顛末書中ニ其旨ノ記載ナキモ此一事ヲ以テ收稅吏カ該手續ヲ行ハサリシモノト推定スルヲ得ス

○間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ノ行動ニ立會人ヲ要スルハ其第六條ノ搜索ヲ行フ場合ニ限ルモノトス從テ收稅官吏カ立會人ナクシテ犯則嫌疑者ヲ尋問スルモ違法ニ非ス

○收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ事由アリトシテ告發

三六
一三五〇

三六
一五二七

三六
一五四九

三七
五三〇

三七
九一五

三七
一五九四

ヲ爲シタル場合ニ其書面上右ノ規定ニ依據セシモノナルコトヲ見ルニ足ルヘキトキハ其告發ハ有效ナリトス而シテ該官吏ノ認定シタル事由ハ必スシモ一々之ヲ明示スルノ要ナシ

○間接國稅犯則者處分法第二條ハ包括的ニ收稅吏ノ搜索權ヲ認メ搜索ノ方法ニ付キ何等ノ制限ヲ付セサレハ收稅吏ハ家宅内ノ或場所ナルト其住居人ノ身體タルトヲ問ハス藏匿セラレタル證憑物件ノ所在ニ就テ搜索ヲ爲シ得ヘキモノトス

○明治三十七年法律第十一號ノ實施以前ト雖モ間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ同三十五年勅令第二百五十五號ヲ以テ之ヲ稅務署長ニ付與シタルカ故ニ稅務署長モ亦犯則事件ニ付キ告發書ヲ作成スルノ權能ヲ有シタルモノトス

(同主旨)

間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ明治三十五年勅令第二百五十五號ニ從ヒ稅務署長之ヲ行フヘキモノトス從テ稅務署長カ犯則者ニ對シテ爲シタル通告手續ハ有效ナリ

明治三十七年法律第十一號實施以前ト雖モ間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ同三十五年勅令第二百五十五號ヲ以テ之ヲ稅務署長ニ與ヘ犯則事件ニ付キ通告告發等ヲ爲スコトヲ許シタルハ稅務署長モ亦通告書ヲ作成スルノ權限ヲ有シタルモノトス

三七
一二二九

三七
九一五

三八
八八〇

三七
二二二

三七
一六三三

間接國稅犯則者處分法施行規則

○間接國稅犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及ヒ處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ云々」トノ規定アルモ其方式ノ違背ニ對シ無効ノ制裁ヲ付セサレハ縱令該書類ニ契印ヲ缺クモ真正ニ作成セラレタルモノハ之ヲ採用スルニ於テ何等ノ不法ナシ

(同主旨)

間接國稅犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及ヒ處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ」トノ規定アルモ無効ノ制裁ナキヲ以テ右規定ニ違背シタリトテ其書類ハ當然無効ナリト云フヲ得ス

森林法

○森林竊盜(森林法第三十八條)ニシテ其贓額ヲ確定セサレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ

○贓物ヲ以テ物ヲ製造シタル事實ハ森林竊盜罪ニ於ケル加重ノ情態ニ過キス從テ特ニ其製造ノ場所及ヒ年月日ヲ判示スルノ要ナシ

三五	四五	三六	三八
四	二	三五	四六
一八六	九五		

○森林法第三十八條第七號ニハ「三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其罪ヲ犯シタルトキ」トアリテ三人以上共謀若クハ五人以上雇使ノ一事實アルトキハ同條ノ犯罪ヲ構成シ二箇ノ事實併存スルモ爲メニ罪刑ヲ異ニスルコトナシ從テ第二審裁判所カ第一審裁判所ト共謀者ノ數ニ付キ認定ヲ異ニスルモ雇使シタル人員ニ付キ認定ヲ同フスルトキハ犯罪構成ノ事實ヲ變更シタルニ非サルヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

○拂下木ノ伐採ヲ爲スニ際シ拂下木ニ押用セル公檢印ヲ他ノ良木ニ盜捺シ立會簿記載ノ拂下木ノ廻尺ヲ改竄シ看守ヲシテ伐採ノ許可ヲ與ヘシメ拂下以外ノ良木ヲ盜伐シタル所爲ハ森林竊盜ニシテ詐欺取財ニ非ス
○森林法ニ規定スル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用キスシテ數罪ヲ併科スルモノトス從テ二箇ノ罰金刑ニ對シ之カ換刑ヲ命スルニ付テモ亦各別ニ換刑スヘキモノニシテ罰金額ヲ通算シテ換刑ヲ爲スヘキモノニ非ス

○森林法第五十一條ハ森林法違背ノ數罪カ併發シタル時ト森林法違背ノ罪ト刑法上ノ罪トカ併發シタル時トヲ問ハス刑法ノ數罪併發例ヲ用キサル法意ナリトス

三五	三八	三六	四二
三六	三六	三六	六三

○森林法ニ所謂贓物トハ單ニ犯罪ニ因テ得タル物品ノミナラス其物品ヲ原料トシテ製造シタル物品ヲモ尙ホ贓物ト看做スモノトス

○森林法第三十八條第二號ニハ「其他ノ物品」ナル極メテ廣汎ナル文字ヲ用キ其物品ノ性質種類ニ付キ何等ノ制限區別ヲ設クルコトナシ從テ同規定ヲ適用スルニハ盜伐ノ目的タル木材カ犯人ノ加ヘタル工作ノ結果木材タルノ性質ヲ失却シ木材以外ノ物品ニ變シタル事實アルノミヲ以テ足レリトシ其物品ノ何タルヤハ之ヲ問フヲ要セサルモノトス

○林産物採取ノ權利ヲ有セサル者カ其權利ヲ有スル者ト共謀シテ盜伐ヲ行ヒタルトキハ森林法第三十八條第六號ニ依リテ處罰セラルヘキモノトス

○森林法第三十八條ハ贓物ノ價格カ二圓以上ナル場合ニ於テハ其價格以下ノ罰金ニ處スルコトヲ禁止シタルモノトス故ニ縱令宥減輕ニ依リ罰金ノ最低額カ二圓以下ニ下ル場合ト雖モ贓物ノ價格以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得ス

○森林法第三十八條第六號ハ林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其權利ナキ林産物ヲ採取シタル場合ニ適用スヘキモノトス故ニ拂下ヲ受ケタル立木ノ存在スル地域ノ内外ヲ問ハス苟クモ拂下木伐採ニ際シ他ノ立

三六

一七四

三六

一七九

三七

二六五

三七

二七七

木ヲ盜伐シタルトキハ此規定ヲ適用セサルヘカラス

○森林法第五十三條ノ規定ハ同法ニ於テ贓物ト看做スヘキモノヲ例示シタルニ過キスシテ之ヲ制限シタルモノニ非ス故ニ森林竊盜ノ贓物ヲ以テ製造シタル板ノ如キモ亦該法條ノ贓物ニ包含ス

(同法)

森林法第五十三條ハ贓物ノ種類ヲ列舉シタルモノニシテ贓物ヲ制限シタルモノニ非ス從テ盜伐シタル樹木ヲ以テ製造シタル角材ノ如キハ當然同條ニ包含スヘキモノトス

○犯人カ盜伐ノ目的タル材木ヲ原料ト爲シ茸木ヲ製造シタル以上ハ之ニ椎茸ノ發生スルト否トヲ論セス森林法第三十八條第二號ニ該當スルモノトス

酒造税法

○酒造税法第三十一條ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕等ノ例ヲ用キサルコトヲ規定スルノミニシテ教唆ニ關スル特別ノ規定ナシ從テ刑法第百五條ノ教唆ノ規定ハ酒造税法違反ノ場合ニ於テ全然之ヲ適用スルコトヲ要ス

○酒造税法第三十二條ハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル犯罪行爲ヨリ生

三七

二四二

三七

二六六

三六

一七四

三六

八四三

三五

四

一七八

同主旨判例
三三三三三
三三三三三
五三三三三

スル刑罰ノ責任ハ酒類製造人ヲシテ之ヲ負ハシムルコトヲ規定シタルニ過キサルモノトス從テ酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ税法違反ノ行爲ヲ爲サシメタル者ハ刑法第百五條ニ依リ酒造税法違反ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス

○酒造税法第二十四條ニ所謂造石數ノ査定トハ製造シタル酒類其モノ、造石數ノ査定ヲ指稱シタルモノトス從テ査定ヲ受クヘキ清酒ノ一部ヲ他ニ移シ同一分量ノ古清酒ヲ補充シタル場合ト雖モ他ニ移シタル清酒ノ査定ハ之ヲ免レタルモノナルヲ以テ同法條ノ犯罪ヲ構成ス

○酒精ト酒粕トヲ混和シタル粕澁醪ヲ搾揚クル爲メ搾器械使用ノ許可ヲ受ケ之ヲ搾揚ケスシテ別ニ製造シ置キタル濁酒ヲ搾ルカ爲メ之ヲ使用シ因テ得タル清酒ヲ粕澁醪ヨリ搾取シタルモノ、如ク假裝シ其査定ヲ經テ之ヲ販賣シタル所爲ハ濁酒ヨリ製出シタル造石數ニ相當スル税金ノ納付ヲ免レントシタル企テタルモノナリトス

○酒造税法第十八條ハ脱税ノ意思ナクシテ酒類ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他人ニ讓渡シ質入シ消費スルコトヲ得サラシメタル取締上ノ禁令ニ過キス而シテ同法第二十四條ハ之ト異ナリ脱税ノ意思アリテ査定ヲ免レ又ハ免レントシタル者ヲ罰スヘキ法條ナリトス

三五
四
一七六

三五
九
一

三五
二
二〇八

三五
四
四六八

○酒造税法ノ規定ハ各酒類毎ニ其製造ノ免許ヲ受ケシムルノ趣旨ナリトス從テ免許ヲ受ケスシテ數種ノ酒類ヲ製造シタル所爲ハ意思繼續ノ一犯罪ニ非スシテ數箇異別ノ犯罪ナリトス

○政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造スルノ罪ハ免許ヲ受ケサルコト、酒類ヲ製造シタルコトノ二要素ヲ以テ成立ス而シテ從犯ノ罪ハ正犯ノ犯罪ヲ構成スヘキ要素ノ一ヲ幫助スルトキハ成立スルモノナルヲ以テ他人カ酒類ヲ密造スルノ事實ヲ知り其原料タル米ヲ供給シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル罪(酒造税法第二十二條)ノ從犯ナリトス

○検査ヲ經テ石數ノ確定シタル清酒醪ニ他ノ清酒滓ヲ混和シ醪ノ量數ヲ増加シタルニ拘ハラズ之カ相當醪ノ検査ヲ免レタル所爲ハ酒造税法第二十七條ニ該當ス

○免許ヲ受ケスシテ清酒ト濁酒トヲ密造シタルトキハ二个ノ無免許密造罪ヲ構成ス而シテ其同一ノ場所ニ於テ同時ニ製造シタルヤ否ヤハ一罪ト數罪トノ區別ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○稅務官吏カ酒造検査ヲ爲スヘキ時ニ關シテハ法律上別段ノ制限ナキヲ以テ夜間ニ之ヲ爲スモ不法ニ非ス

三六
五四八

三六
六三〇

三六
一六四

三七
二三三

三七
二二七

○酒類ノ製造販賣ヲ業ト爲サ、ル者ノ家族雇人等カ酒造税法ニ違反シタル場合ハ同法第三十二條ノ規定ニ該當セザレハ實際違反行爲ヲ爲シタル者ヲシテ刑罰ノ責任ヲ受ケシムヘキハ當然ナリ

○純酒精ノ容量幾箇ト云フト酒精分何度ト云フトハ元來同一ノコトナルモ酒精及酒精含有飲料税法並ニ酒造税法ノ解釋上前者ニハ容量トアルヲ以テ之ニ對シ幾箇トシテ其數ヲ現ハシ後者ニハ酒精分トアルヲ以テ何度トシテ其度數ヲ現ハシタルモノニ外ナラス

○酒造税法第二十五條ハ同時ニ免稅ヲ出願シタル清酒ニ付キ其一部ニ關シ免稅ヲ得ンカ爲メ特ニ不正ノ手段ヲ運ラシタルトキハ其手段ニ關係ナキ他ノ部分ニ付テモ犯罪成立スルモノトシテ之ヲ處罰スルノ法意ニ非ス

○酒造税法第三十一條ハ同法違反者ニ對シテ絶對的ニ再犯加重ノ例ヲ除外シ何等ノ區別ヲ設ケサレハ一ノ税法違反ノ所爲ハ他ノ税法違反ノ所爲トノ關係ニ於テ互ニ前科ト爲リ再犯ト爲ラサルハ勿論他種ノ犯罪ニ對スル關係ニ於テモ亦互ニ前科ト爲リ再犯ト爲ラサルモノト解釋セザルヘカラス

○酒造税法第二十四條ノ犯罪ヲ構成スルニハ單ニ造石數ノ査定ヲ免レ又

三七

二七七

三七

一三七九

三六

五二

三六

六五

ハ免レントスルノミヲ以テ足レリトセス其之ヲ免ル、爲メ詐欺其他不正ノ所爲アルコトヲ要ス從テ造石數ノ査定ヲ免ル、爲メニ行ヒタル不正ノ所爲ヲ明示セザル判決ハ違法ナリ

三六

七九

○免許ヲ受ケスシテ清酒並ニ醪ヲ製造シタル場合ニハ清酒製造ノ所爲ニ付キ酒造税法第二十二條ヲ適用スルト同時ニ尙ホ醪製造ノ所爲ニ付テハ酒母醪及麴取締法第九條ヲ適用シ二罪俱發トシテ處分セザルヘカラス

三六

八二

酒精及酒精含有飲料税法

○苟クモ免許ヲ得スシテ竊ニ酒精含有飲料ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條同第二條ニ從ヒ處斷スヘキモノトス而シテ之ヲ製造スルニ當リ納稅濟ノ清酒又ハ酒精ヲ用ユルト其他ノモノヲ用ユルトハ同法ノ問ハサル所ナリトス

三六

九〇五

○酒精及酒精含有飲料税法第八條ニ依リ免稅ヲ受ケタル酒精及ヒ酒精含有飲料ノ原料ト雖モ其原料ヲ以テ更ニ酒精含有飲料ヲ製造シタルトキハ其飲料ノ造石數ニ對スル造石稅ハ之ヲ免除セラレタルモノニ非ス

三六

一六四

○酒精及酒精含有飲料税法第四條ニ所謂清酒、濁酒等ハ純粹ノ清酒、濁酒

等ヲ指稱シタルモノニシテ之ヲ基礎ト爲シ他ノ物品飲料ヲ混和シテ製
造シタル不純粹ノ飲料ヲ包含スルコトナシ

○清酒、濁酒、白酒、味淋等ヲ基礎トシ他ノ物品ヲ混和シテ特種ノ飲料ヲ
製造セントスル者ハ既ニ基本タル酒類ニ付キ製造ノ免許ヲ受ケ納税ノ
義務ヲ完了シタル場合ト雖モ尙ホ酒精及酒精含有飲料税法ノ規定ニ從
ヒ別ニ政府ノ免許ヲ受ケ且同法所定ノ造石税ヲ納付セサルヘカラス

○免許ヲ受ケスシテ若干ノ酒精ヲ製造シタル事實アル以上ハ縱令其數量
僅少ナルモ五十圓ノ罰金ヲ免ル、コトヲ得ス（酒精及酒精含有飲料税
法第十五條）故ニ密造ニ係ル酒精ノ數量明確ナラサル場合ニ於テ法定
ノ最低罰金額五十圓ニ處シタルハ相當ナリ

○清酒ニ他物ヲ混淆シタルモノハ純粹ノ清酒ニ非スシテ酒精ヲ含有スル
一種ノ飲料ナリトス故ニ免許ヲ受ケスシテ之ヲ製造シタル所爲ハ酒精
及酒精含有飲料税法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス

○酒精及酒精含有飲料税法ハ石數ヲ以テ課税ノ標準ヲ定ムルカ故ニ免脱
ニ係ル造石税ノ幾何ナルヤヲ知ルニ付テハ先ツ酒精又ハ酒精含有ノ原
容量ノ總石數ヲ見テ其原容量百分中ニ含有スル純酒精ノ度數ヲ計リ之
ヲ基本トシテ原容量ノ總石數中ニ含有スル純酒精ノ分量幾干箇ナルヤ

ヲ算定セサルヘカラス

○酒精及酒精含有飲料税法ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付キ其製造ノ原料ヲ
限定セサレハ酒精ニ他ノ酒類又ハ物品ヲ混和スルト將タ酒精含有飲料
ニ酒類又ハ他ノ物品ヲ混和スルトヲ論セス苟クモ免許ヲ受ケスシテ其
混和ノ結果飲料タル效用ヲ有シ且増量セル一種ノ酒精含有飲料ヲ製造
シタルトキハ之ヲ處罰スルノ法意ナリト解釋セサルヘカラス

（同法）

免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ含有スル一ノ飲料ヲ製造シタル以上ハ其原料ノ燒酎ナルト酒精ナル
ト其他ノ物品ナルトヲ問ハス酒精及酒精含有飲料税法第十五條第二條ノ犯罪ヲ構成ス

酒精及酒精含有飲料税法ハ酒精含有飲料ニ付キ其製造ノ原料ヲ限定セサルカ故ニ酒精ニ他物
ヲ混和スルト將タ酒精ヲ含有スル液體ニ他物ヲ混和スルトヲ問ハス苟クモ免許ヲ受ケスシテ
酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタルトキハ同法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス

○酒精及酒精含有飲料税法第二十三條ノ製造者若クハ販賣者ナル文詞ハ
一般ノ用例ニ從ヒ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造若クハ販賣スル
者ヲ概括セルモノニシテ官ノ免許ヲ得テ此等ノ業務ニ従事スル者ナル
ト將タ其免許ヲ受ケスシテ事實上斯業ニ従事スル者ナルトヲ問ハサル
旨趣ナリトス

三七

一七三

三七

一七三

三七

一七三

三六

一七三

三六

四一五

三六

八八〇

三七

一一九

三七

一八九

三六

一一一

酒母醱及麴取締法

○ 苟クモ免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造シタル以上ハ其目的ノ如何ニ拘ハラズ酒母醱及麴取締法第九條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

砂糖消費税法

○ 砂糖製造業者カ其製造ノ原料ヲ保税倉庫ヨリ引取ルニ當リ砂糖消費税法第十一條一ノ二項ニ從ヒ擔保ヲ提供シタルトスルモ其製品ヲ他ニ引渡スニハ同法第七條ノ規定ニ據ラサルヘカラス故ニ消費稅納付前ニ於テ製品ヲ他ニ引渡シタル事實ヲ認メ乍ラ其製造ノ原料引取ニ付キ提供セシ擔保アルカ爲メ同第七條ニ所謂擔保提供濟ナリトシテ其所爲罪ト爲ラスト判決シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス

取引所法

○ 取引所法第三十二條ヲ以テ處罰スルニハ賣買取引ノ行爲アルヲ要ス
○ 名ヲ賣買取引ニ籍リ其實一種ノ賭博ヲ爲スモノハ賣買取引ノ行爲ナキヲ以テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シ

三六
八三

三七
三三八

三五
二一〇四

タルモノ(取引所法第二十五條)ニ非ス

○ 苟クモ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一若クハ類似ノ方法ニ據リ取引ヲ實行シタル以上ハ縱令其賣買取引カ意思表示ノ瑕瑾若クハ意思ノ合致ヲ欠ク爲メ民法上取消シ得ヘキ行爲ト爲リ又ハ全然效力ヲ生セサル場合ト雖モ之ヲ以テ取引ノ所爲ナシト云フヲ得ス

鐵道營業法

○ 線路彎曲シテ遠望ヲ妨クル踏切ニシテ往來頻繁而モ踏切番人ノ出務シ居ラサル場合ニ在リテハ汽車機關手ハ衝突等公衆ノ危害ヲ避クルカ爲メ注意汽笛ヲ鳴ラシ且危害ヲ避クル注意ヲ爲シ容易ニ停車シ得ヘキ準備ヲ以テ運轉スヘキハ其職責ナリトス從テ苟クモ此職責ヲ盡サハルニ於テハ鐵道營業法第二十五條ノ制裁ヲ免レヌ

○ 鐵道營業法第二十五條ハ旅客若クハ公衆ニ危害ヲ生スヘキ虞アル行爲ヲ爲シタル者ヲ處罰スルモノニシテ人ヲ癡疾ニ致シタルカ如ク既ニ危害ヲ生セシメタル行爲ハ刑法第三百十八條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

通貨及證券模造取締法

三五
二一〇四

三六
八三

三六
二二二九

三七
六三九

○通貨及證券模造取締法(明治二十八年法律第二十八號)ニ所謂模造トハ刑法上偽造ト認メ得ヘカラサルモノニシテ貨幣等ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ云フ從テ農工銀行ノ債券ヲ偽造シタルカ如キ所爲ニ對シテハ同法ヲ適用スヘキモノニ非ス

兌換銀行券條例

○兌換券偽造器械豫備罪ハ兌換券ヲ偽造スルノ目的ヲ以テ之ヲ偽造シ得ヘキ器械ヲ豫備スルニ因リテ成立ス從テ其器械カ兌換券ノミヲ偽造シ得ヘキモノニシテ他ニ用方ナキモノナルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

要塞地帶法

○要塞地帶法ト其地帶ノ區域ヲ定メタル陸軍省告示トハ相竣テ運用ヲ爲スモノトス從テ官報ヲ以テ正式ニ公布シタル告示ハ該法ト同一ノ效力ヲ有ス

軍機保護法

○軍機保護法第四條第一項ニ所謂防禦營造物ノ狀況ノ錄取ハ其狀況ノ精粗ヲ問ハス又其軍備ノ要機ニ關スル狀況ナルコトヲ必要トセス從テ苟クモ許可ヲ得スシテ砲臺ニ海岸砲ヲ据付ケタルコト及ヒ其砲門ノ口徑員數等ヲ新聞紙上ニ錄取シタル以上ハ同條違反ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

瀆職法

○議員カ其職務ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ其報酬トシテ金品ノ贈與ヲ受クヘキ豫約ヲ爲シ該囑託事項ニ付キ盡力シタル後豫約ノ金品ヲ要求シテ之ヲ受取リタルトキハ瀆職法第一條ノ賄賂收受罪ニ問擬スヘキモノニシテ其犯罪ハ現ニ金品ヲ受取リタル時ニ於テ完成ス

○議員カ人ノ囑託ヲ受ケ收賄ノ豫約ヲ爲シ其囑託事項ニ付キ盡力セル當時ニ於テハ之ヲ處罰スヘキ法規アラサリシモ爾後該法令ノ發布セラレタルニ拘ハラス尙ホ賄賂ノ豫約ヲ遂行シ金品ヲ收受スルトキハ同法ノ制裁ヲ免レサルモノトス

○瀆職法第一條ノ贈賄罪ハ法令ニ依リ選舉又ハ任用シタル議員會員等ノ職務ニ關シテ囑託ヲ爲シ之ニ金品ヲ授與スルニ因リ成立スルモノニシ

三六	二二〇
三五	一五
三六	七九

三五	四	一九一
三七	五	五八
三七	五	五八

テ自己ノ爲メニ囑託スルト他人ノ爲メニスルト又其金品カ自己ノ所有物ナルト他人ノ所有物ニシテ他人ノ手ヨリ出テタルトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

三七

五九七

○瀆職法ニ所謂賄賂ハ吾人ノ需要ヲ充タスニ足ル一切ノ利益ヲ包含ス從テ酒食ノ饗應ヲ爲スカ如キモ亦賄賂ノ物體タルコトヲ妨ケス

三七

七三七

華族世襲財產法

○華族世襲財產法及ヒ同法施行手續ニ於テ華族世襲財產ト爲リタル公債證書ニ爲華族世襲財產ナル印章ヲ押捺シ番號年月日ヲ記入スヘキコトヲ規定シタルハ此押印記入ニ依リ公債證書ノ所有者ニ於テ其證書ノ處分權ヲ制限セラレタル旨ヲ明示シ之ヲ目的物トシテ取引ヲ爲サントスル者ヲ警告保護スルニ在リ

三七

二六〇

○華族世襲財產タル公債證書ノ押印記入ノ部分ハ其證書ノ一部ヲ形成シ之ト一體ヲ成スモノナレハ特ニ此部分ノミヲ分離シテ觀察スヘキモノニ非ス

三七

二六〇

船員法

○船員法第十九條ハ船長ハ人命船舶等ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客船員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルコトヲ禁シタルモノトス從テ立去ルノ意思アリタル以上ハ船客ヲ見捨ツルノ意思ノ有無ヲ問ハス同法條ノ違背タルヲ免レス

三五

五二

○船員カ沿岸ノ航海ニ於テ專ラ豫定ノ方位ニノミ著眼シ陸地ノ遠近ニ注意セサルシ爲メ其船舶ヲ轉覆シ人ヲ死ニ致シタルトキハ船員法第七十三條ノ犯罪ヲ構成ス

三七

一五七三

特許法

○特許ハ特許局ノ審決ヲ以テ其無効ヲ宣告セサル限りハ依然存立スヘキモノトス從テ通常裁判所ハ特許ノ當否及ヒ其效力ノ有無ヲ判斷スルコトヲ得ス

三七

一六七九

○特許法第四十七條ニ「詐僞ノ所爲ヲ以テ云々」トアルハ民法第二十條ニ所謂「詐術ヲ用キタルトキ」ニ比スレハ一層汎博ナル意義ヲ有シ詐術ヲ用キタル場合ノ外尙ホ人ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ僞言ヲ用キタル場合ヲモ包含ス從テ同條ノ犯罪ヲ構成スルニハ必スシモ詐術ヲ用キタル事實アルコトヲ要セス

三七

二二五六

○特許公報ヲ以テ公示セラレタル事項ハ一應人ノ知了シタルモノト推定シ得ルニ過キサルヲ以テ事實裁判所ハ被告人ハ其事項ヲ知了セザリシモノト認定スルコトヲ得

商標法

○商標法第二條第五號ニハ此法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若クハ類似ノモノハ同條本文ニ因リ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ストアリ從テ該法律ノ施行(明治三十二年七月一日)以前ニ於テ他ニ使用者アル場合ハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

○商標法第十六條ハ他人ノ登録商標ナルコトヲ知り其承諾ヲ經スシテ製造シタル事實ト其之ヲ交付若クハ販賣シタル事實トノ二箇ノ行爲ヲ具備スルヲ待テ始メテ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ苟クモ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シタル者ハ勿論其偽造ノ商標ヲ交付シタル者若クハ之ヲ販賣シタル者ハ皆同條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

○商標公報ハ特許局カ商標法第十四條ノ規定ニ從ヒ登録商標ニ關スル事項ヲ公示スル爲メ發行スルモノニシテ同法ト相俟テ運用ヲ爲スモノトス從テ商標公報ヲ以テ公示セラレタルモノハ何人ト雖モ之ヲ知了シタルモノト看做スヘキモノトス

三八

四九〇

三五

四

六六

三六

二九

ルモノト看做スヘキモノトス

○商標法第十六條ニ所謂同商品トハ商品ノ名稱同一ナルモノヲ指シタルニ非スシテ商品ノ實質上同一種類ニ屬スルモノ、謂ナリトス

三六

一四六四

三七

五七七

○商標ハ特許局ニ於テ法定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査シ之ヲ付與シタル以上ハ商標主ハ何人ニ對シテモ其專用權ヲ主張シ得ヘク司法裁判所モ亦商標ニ關スル事件ヲ審判スルニ當リテハ特許局ノ許可シタル所ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘキハ當然ナリ

三六

五七七

○一旦付與セラレタル商標ハ特許局ニ於テ其無効ヲ宣言セサル限りハ依然存立スヘキモノトス從テ司法裁判所ハ其效力ノ有無ニ付キ判斷スルコトヲ得ス

三六

五七七

○或商品ニ使用セシカ爲メ商標ノ登録ヲ受ケタル者ト雖モ其商標ニシテ他人カ該商品ト類別ヲ異ニスル他ノ商品ニ使用スル爲メ登録ヲ受ケタルモノニ類似スルコトヲ知り乍ラ同一ノ商品ニ之ヲ使用スルニ於テハ商標法第十六條ノ制裁ヲ免ル、コトヲ得ス

三六

二九三

出版法

○出版法第十五條ハ學校會社等團體ノ名義ヲ以テスル著作物ハ之ニ對シ

テ責任ヲ負フ者及ヒ權利ヲ有スル者ノ團體全員ナルヤ否ヤヲ判定スルニ困難ナルヲ以テ一ノ擬制ニ依リ著作ニ關與ノ有無ヲ問ハス其團體ノ代表者ヲ著作ト看做シタルモノトス從テ此等團體ノ代表者ハ著作ノ責任ヲ負擔スルト同時ニ著作權者トシテ行動スルコトヲ得

著作權法

○著作カ其權利ヲ登錄スルト否トハ唯僞作者ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ルト否トノ差アルニ止マリ其權利ハ登錄ノ有無ニ拘ハラズ常ニ之ヲ享有スルモノトス

○一學會ノ雜誌編輯人カ著作權ヲ登錄シ順次後任ノ編輯人ニ之ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ現任ノ編輯人ハ僞作者ニ對シテ有效ニ告訴ヲ爲シ得ルモノトス而シテ其編輯人カ一個人ノ資格ニ於テ著作權ヲ有スルヤ否ヤハ告訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○著作權法第十五條第三項ハ著作權ノ讓渡又ハ質入ハ之ヲ登錄スルニ非サレハ民事上其權利ノ優先ヲ爭フカ如キ場合ニ於テ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定シタルニ止マリ登錄ナキ讓渡ハ絶對的ニ效力ナシトスルモノニ非ス故ニ其讓渡ニシテ適法ナル以上ハ縱令登錄ヲ經サルモ

三七

一三五二

三六

一三〇五

三七

七六六

讓受人ハ完全ニ其權利ヲ取得セルモノトス

○著作權法第一條ニ所謂複製トハ原著物ト全然同一ナルモノヲ再製スル行爲ノミヲ云スニ非ス原著物ノ枝葉ニ於テ多少ノ修正増減ヲ加フルモ其趣旨彼此同一ナル程度ノモノヲ複製スル行爲モ亦之ニ包含ス

○著作權法第四十七條ニ所謂本法ノ保護トハ單ニ新法ニ定メタル保護其モノヲ指稱スルニ止マリ從前ノ著作物ハ新法所定ノ條件ヲ具備セサレハ其保護ヲ享有セシメサルノ意義ニ非ス

○著作權法施行前ヨリ著作權ノ存續セル定期刊行物ハ轉載ヲ禁ズル旨ヲ明記セサルモ著作權者ニ於テ之ヲ複製スルハ專權ヲ有ス故ニ苟クモ其承諾ヲ經スシテ轉載シタル以上ハ縱令記事ノ出所ヲ明記スルモ僞作ノ刑責ヲ免レサルモノトス

煙草專賣法

○煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ各販路ノ區域ニ法律上ノ制限アリテ煙草元賣捌人ハ煙草小賣人ヲ兼業スルコトヲ得ス從テ煙草元賣捌人ハ費消者ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非ス又煙草小賣人ハ其同業者タル小賣人ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非ス

三七

七六六

三七

八四八

三七

一七八

三七

一七八

三六

五八五

○製造煙草ヲ賣買スルハ煙草專賣法上特ニ煙草賣捌人トシテ指定セラレタル者ニ限り之ヲ行フコトヲ得從テ煙草賣捌人ニ非サル者カ賣捌人ノ代理名義ヲ以テ製造煙草ヲ賣買シタル所爲ハ煙草專賣法第四十九條ノ犯罪ヲ構成ス

三六

三六一

葉煙草專賣法

○葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ「葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ云々」トアル其讓渡ナル語辭ハ廣ク賣買交換其他所有權ヲ移轉スヘキ方法ヲ指稱シタルモノトス從テ若シ營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタル者ヲ處罰スヘキ特別ノ規定ナカラシニハ該犯人ニ對シテモ同條項ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト雖モ同法第二十一條ノ二ニ該犯人ヲ處罰スヘキ特別ノ規定アル以上ハ該犯人ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

三六

三三五

○葉煙草專賣法第三條ニ依リ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ之ヲ政府ニ納付スルハ皆葉煙草耕作人ノ業務ニ屬ス故ニ若シ其間ニ於テ代理人家族同居者又ハ雇人中之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シタル者アルトキハ耕作人ハ其責罰ヲ免ル、コトヲ得ス

三七

二八七

骨牌稅法

○骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者カ自己ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルニ非スシテ他人ノ製造シタル骨牌ヲ販賣セントスルニハ特ニ販賣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

三六

二九七

○骨牌稅法第二十四條ニハ骨牌ノ製造又ハ販賣ノ免許ヲ受ケサル者ノ所持ニ係ル骨牌ノ廢毀ニ付キ別ニ期間ノ規定アラサルヲ以テ同法施行ノ日ヨリ七日ヲ經過セハ直ニ其骨牌ヲ廢毀セシムルノ法意ナリト解釋スヘキモノトス

三六

一七八

○骨牌稅法第十九條ニ謂フ本法ヲ犯シタル者トハ同條ノ前後ヲ問ハス該法律所定ノ規則ニ違反シタル者ヲ指示スルモノニシテ其所謂減輕ナル文詞ニハ刑法第八十九條第九十條ノ酌量減輕ヲモ包含ス

三七

九四五

○骨牌稅法施行ノ際廢毀スヘキ骨牌ヲ廢毀セスシテ無印紙ノ儘之ヲ所持シタル行爲ハ同法附則第二十四條第三項ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其所持ノ目的カ販賣ニ在ルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

三六

八二七

遺失物法

○當事者雙方ノ違算ニ因リ偶然其一方ノ占有ニ歸シタル物件ハ刑法第三百九十五條ニ所謂受寄ノ財物又ハ委託ヲ受ケタル物件ニ非スシテ遺失物法第十二條ニ所謂誤テ占有シタル物件ナリトス從テ占有者カ不正ニ之ヲ處分シタル所爲ハ遺失物法第十六條ノ犯罪ヲ構成ス

戸籍法

○戸籍法第二百五十五條ニ所謂自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ云々ノ利トハ詐欺ノ届出ヲ爲スニ因リ特ニ或利益ヲ得ルコトヲ目的トシタルモノナルヲ要ス而シテ利ナル文字ハ金錢上ノ利益ノミニ限ラス

○正當ニ入籍ノ手續ヲ爲ス能ハサルカ爲メ虚偽ノ事實ヲ記載シタル隱居届及ヒ入夫婚姻届ヲ戸籍吏ニ提出シタル所爲ハ自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐欺ノ届出(戸籍法第二百五十五條)ヲ爲シタルモノトス

○他人ノ私生兒ヲ貰受クルニ當リ幼兒生長後自己ヲ實親ト信セシメント欲シ又養子届出ノ手續ヲ免レント欲シタルカ爲メ虚偽ノ認知届ヲ爲シタルカ如キハ戸籍法第二百五十五條ニ所謂利ヲ圖リタルモノト云フヲ得ス

○警察官ノ視察ノ煩ヲ免ル、爲メ虚偽ノ認知届ヲ爲シタル者ハ同條ニ該

三六
三〇九

三五
四
五四

三五
六
一四

三五
八
一〇〇

當ス

○戸籍ハ身分上ノ關係ヲ公示スヘキ公簿ナリトス故ニ裁判所ニ於テ之ニ反スル認定ヲ爲スニハ相當ノ理由ヲ明示セサルヘカラス

○身分登記ニ關スル當事者ノ申請ニシテ苟クモ形式上ノ要件ヲ備フル以上ハ戸籍吏ハ其實體上ノ要件ヲ缺ケルコトヲ理由トシテ登記ノ手續ヲ拒ムコトヲ得ス故ニ當事者ヨリ申請シタル事項カ實體事實ニ適合セサルコトヲ知リテ之ヲ登記スルモ刑事上ノ責任ヲ負フコトナシ

○戸籍法第二百五十五條ノ罰則ハ身分ニ關スル届書又ハ申請書中ニ於テ當事者ノ爲シタル無形ノ偽造ニ對シ特ニ制裁ヲ付スルノ趣旨ニ出テタルモノトス故ニ同條ニ所謂詐僞ノ届出若クハ申請トハ届出又ハ申請ノ内容ニ虚偽アル場合ノミヲ指稱シ他人ノ名義ヲ冒シテ届書又ハ申請書ヲ偽造シタル場合ハ之ニ包含セス

○合法ノ原因ナキ身分登記ハ唯形式上存在スルニ止マリ當事者ヲシテ登記ノ目的タル身分ヲ取得セシムルノ效力ヲ生セス故ニ當事者ハ其身分ノ身分登記簿ニ登記セラレタル一事ノミヲ以テ實體上其身分ヲ取得シタルモノトシ之ニ伴フ權利ヲ行使スルコトヲ得ス

○虚偽ノ名稱ヲ以テ無籍ニ因ル一家創立ノ届出ヲ爲シ身分登記簿ニ登記

三五
八
一〇〇

三七
八
八七

三七
一
三三七

三七
一
五四四

三七
一
〇〇三

セラレタル者カ同一ノ名稱ヲ用キテ廢家届及ヒ其實父トノ養子縁組届ヲ爲シタル所爲ハ戶籍法第二百十五條ノ犯罪ヲ構成ス

三七

二〇〇三

肥料取締法

○肥料取締法第七條ニ所謂肥料ノ偽造トハ農産物ノ肥養ト爲ラサル物料ヲ以テ肥料ニ擬シタルモノヲ造リタル場合ヲ指稱シ一定ノ肥料ニ他ノ物料ヲ混和シタル場合ハ之ニ包含セス

三六

六六

○肥料取締法第七條ニ所謂肥料ヲ偽造若クハ他ノ物料ヲ混和スルトハ一定ノ原料並ニ製造方法ヲ以テ製造シ且一定ノ名稱ヲ有スル肥料中ニ他ノ物料ヲ混和シ又ハ他ノ物料若クハ製造方法ヲ以テ之ヲ偽造スルノ謂ニシテ其混和シタル物料又ハ偽造肥料ノ原料ト爲リタル物件カ農産物ノ肥養ト爲ルト否トハ問フ所ニ非ス

三六

七六五

肥料取締法施行規則

○肥料取締法施行規則第十條ハ同規則第一條第三項ノ手續ヲ履行セザル者ニ對スル制裁ニ外ナラスシテ實體上一定ノ肥料ヲ偽造シ又ハ之ニ他物ヲ混和シ以テ純粹ナル肥料ナリトシテ人ヲ欺キタル場合ニ適用スヘキ規定ニ非ス

キ規定ニ非ス

三六

七八五

行政法

○國家ノ執行機關カ其占有中ノ競賣代金ヲ滅失セシムルコトアルモ國家ハ決シテ之カ責ニ任スヘキモノニ非ス從テ其代表者タル検事局ハ競賣代金ノ費消者ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルノ權ナシ

三七

一五〇七

○官吏ノ任命補職ハ官報ノ掲載ニ因リ其效力ヲ生スルニ非スシテ當該官廳ノ職務上ノ行爲ニ由リ本人自ラ之ヲ知得シタル場合ニ於テ始メテ其效力ヲ生スルモノトス故ニ官報上官吏轉職ノ事ヲ掲記スルモ未タ本人ニ於テ當該官廳ヨリ辭令ノ交付ヲ受ケサルカ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之カ通告ヲ受ケサルトキハ依然舊職務ニ從事スルモ不法ニ非ス

三六

五二七

行政執行法

○學齡兒童ノ保護者カ就學義務ヲ盡サル場合ニ於テ郡長ヨリ督促ヲ爲スモ尙ホ之ニ應セザルトキハ郡長ハ其者ニ對シ二圓以下ノ過料ヲ言渡スノ職權ヲ有ス而シテ其過料ノ徴收ハ國稅徴收法ノ規定ニ依リテ之ヲ行フヘキモノトス

三七

二二七

徵兵令

- 徵兵令第三十一條ノ犯罪ヲ構成スルニハ犯人ニ徵兵適齡者ノ身分アルコトヲ要ス從テ他人カ適齡者ノ爲メ同條所定ノ行爲ヲ爲スモ實行正犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス
- 兵役ヲ免レントスル者ノ行爲ヲ容易ナラシメタル場合ニ於テ苟クモ其幫助ヲ受ケタル者カ徵兵適齡者ノ身分ヲ有スル以上ハ幫助ヲ爲シタル者ハ其身分ノ如何ニ拘ハラズ從テ犯罪ヲ構成スルモノトス
- 苟クモ兵役ヲ免ルノ目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シタル者ハ檢査ノ結果兵役ヲ免レタルト否トニ論ナク徵兵令第三十一條ニ依リテ處罰セラルヘキモノトス

三七	一八七四
三七	一八七四
三六	九六九

新聞紙條例

- 傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス（新聞紙條例第十六條第二項）トハ傍聽禁止中ニ於ケル被告事件ノ訊問辯論等ニ關スル内容ヲ掲載スルヲ得ストノ謂ナリ從テ其傍聽ヲ禁止セサル以前若クハ其禁止ヲ解キタル以後ノ事項ヲモ掲載スルコトヲ禁シタルモノニ非ス

ノニ非ス

- 民主主義ト云ヒ階級制度ヲ全廢スルト云ヒ或ハ財富ノ分配ヲ公平ニスルト云フカ如キハ現時ノ制度ヲ破壞スルノ甚シキモノニシテ此等ノ理想ニ基キ政黨ヲ組織シ同志ヲ集合スルニ於テハ社會ノ秩序ヲ害スルモノトス從テ此等ノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第三十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス
- 新聞紙條例第十三條末項ノ規定ハ其趣旨正誤要求者ノ何人タルヤヲ明カニセントスルニ在ルモノトス從テ縱令氏名ノ明記ナキモ其何人ノ要求ニ係ルコトヲ知ルニ足ルトキハ有效ナル申込アリタルモノトス
- 新聞紙條例ニハ正誤申込書ノ調製ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ電報ヲ以テ正誤申込ヲ爲スモ有效ナリトス
- 衆議院委員會ニ於ケル祕密ノ事項ハ法律ヲ以テ議員ノ外傍聽ヲ禁シタルモノトス從テ新聞紙上ニ其會議ノ事項ヲ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第十八條第二ニ該當ス
- 新聞紙條例第二十五條ニ所謂「私行」トハ各人カ一個人トシテノ行動上ニ於テ爲ス所ノ總テノ行爲ヲ云フ而シテ其行爲ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤ又其行爲カ他人ノ利害ニ關係ヲ及ホスヤ否ヤハ之ヲ問ハサルモノトス

三五	二六
三五	三五
三五	二七
三五	二六
三五	九〇七

○新聞紙ノ編輯人ト發行人トハ各別異ノ資格ヲ有スルモノトス從テ其編輯ニ關スル事務ト發行ニ係ル事務トヲ一人ニテ兼掌スル者カ新聞紙條例第二十二條ノ禁令ニ違反シタル場合ニハ一面ハ編輯人トシテ他ノ一面ハ發行人トシテ其刑罰ヲ併科セラルヘキモノナリ

○新聞紙條例第三十三條ニ所謂社會ノ秩序ヲ壞亂スル事項トハ論說タルト雜報タルトヲ問ハス秩序ヲ壞亂スヘキ一切ノ事柄ヲ總稱セルモノトス

○新聞紙條例第三十三條ハ新聞紙ニ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ其紙上ニ記名スル發行人編輯人ヲシテ常ニ之カ責ニ任セシムルモノトス從テ發行人若クハ編輯人ハ其發行ノ當時不在ナリシト云フカ如キ主張ヲ以テ責罰ヲ免ル、コトヲ得ス

水利組合條例

○水利組合ハ水路ノ保護管理ヲ爲シ團體各自ノ流水使用權ヲ完全満足ニ行使セシムルコトヲ以テ目的ト爲スモノナレハ井堰其他流水ノ保存等ノ爲メニ必要ナル營造物其モノ、保存管理ニ關スル事項ニ止マラス流

三六

一〇〇

三六

九七六

三六

一〇七一

三六

一〇四六

水引用工事ノ新設等其流水ノ使用權ニ影響スヘキ事項ニ付テモ亦組合會ニ於テ之ヲ議決スヘキ權限ヲ有ス

○水利組合條例第二十一條ハ組合會ノ議決スヘキ事項ノ概目ヲ例示シタルニ過キサレハ同條ニ明文ナキノ故ヲ以テ直ニ議決ノ權ナシト云フヲ得ス

外國旅券規則

○變造ノ旅券タル事情ヲ告ケスシテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ其交付ノ時ニ於テ變造文書行使罪ヲ構成ス而シテ交付ヲ受ケタル者カ更ニ之ヲ巡查ニ提出シ使用シタルトキハ交付者ハ外國旅券規則第十六條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

公證人規則

○公正證書ニ於ケル關係人ノ署名ハ該證書成立ノ一要件ニシテ其署名ナキモノハ公正ノ效ナキモノナレハ(公證人規則第二十四條)其署名ハ公正證書ノ一部ナリトス從テ其署名ノ部分ヲ偽造シタル所爲ハ公正證書偽造罪ヲ構成ス

三七

一一〇五

三七

一一〇五

三六

六二九

三六

一九七

林區署官制(明治三十六年勅令第二) 百四十五號ヲ以テ改正)

(參照)

大林區署官制第九條ニハ「森林監守ハ判任トシ四百六十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ受ケ
森林保護ニ從事ス」トアリ而シテ國有林ト私有林トノ境界ヲ査定シ其境界ヲ標示スル爲メ國
有林ノ樹木ニ檢印ヲ施スハ國有林ヲ保護スルカ爲メニ必要ナル處分ナリトス從テ官制上森林
監守ノ司掌スヘキ森林保護ノ職務ニ關スヘキモノトス

帝國大學令

○帝國大學總長ハ大學ヲ總轄シ其一般ノ事務ヲ掌理スルモノナレハ大學
ニ關スル法律關係ニ付キ國ヲ代表スルノ權利ヲ有シ從テ國カ東京帝國
大學ノ名ニ於テ著作權ヲ有スル場合ニ總長カ僞作者ニ對シテ告訴ヲ爲
シタルハ適法ナリ

小學校令(明治三十六年勅令第七) 十四號ニ依リ一部改正)

(參照)

府縣等管師範學校長ハ小學校令ニ依リ其府縣ノ小學校圖書審查委員ト爲ルヘキ資格アルモ小
學校圖書審查委員會ハ臨時開設セラルヘキモノニシテ常設ノモノニ非ス從テ右校長ハ審查委
員會ノ開設セラルヘキ當初初メテ其委員ト爲リ職務ヲ執行スルモノニシテ校長ノ常職トシテ

該委員會ノ職務ヲ執行スルモノニ非ス

小學校令施行規則(明治三十五年文部省令第三) 號同上第十五號三十六年同

第十一號同第二十二號同第三十四號) 三十七年同第一號ニ依リ一部改正)

(參照)

小學校令施行規則第六十三條ノニハ刑法ノ賄賂罪ニ比較スレハ其趣旨頗ル廣ク請託ノ有無ニ
拘ハラズ職務ノ前後ヲ問ハサルヲ以テ其目的刑法ニ於テ罰セサル所爲ヲ罰セントスルニ在ル
モノトス從テ刑法ニ處罰ノ明文アル所爲ニ對シテハ該規定ハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス
小學校令施行規則追加第六十三條ノニハ金錢其他ノ利益ノ供與カ尙クモ小學校教科用圖書ノ
審查又ハ檢定ニ關連スルモノナルニ於テハ其供與ノ時期供與ノ原因如何ニ拘ハラズ處罰スル
ノ趣旨ナリトス
小學校令施行規則第六十三條ノニハ小學校教科用圖書ノ審查ニ關スル審查委員ノ制裁ト其探
定ニ關スル府縣知事ノ責罰トヲ規定シタルモノナリ

明治二十二年法律第二十八號

○明治二十二年法律第二十八號(議會並議員ノ保護ノ件)ニ所謂公然トハ
祕密ニ對スルノ語ニシテ祕密ナラサル場合ハ常ニ公然ナリトス從テ公
然又誹毀侮辱ト云々ニハ敢テ不特定ナル多數人ニ對シテ之ヲ爲ヌヲ要

小學校令施行規則(明治二十二年法律第二十八號)

四三二

三六	二四二
三六	二七七
三六	二八六
三六	二八六

三七	二二二
三七	二二二

セズ特定シタル少數人ニ對スル場合ト雖モ苟クモ其行爲ノ祕密ナラサル以上ハ公然ノ誹毀侮辱ナリトス

三六

一八七

○明治二十二年法律第二十八號議會及議員ノ保護ニ關スル罰則第二條ニ所謂公然ノ侮辱トハ議員ノ名譽ヲ毀損スヘキ言語文書ヲ第三者ノ視聽ニ達セシメ又ハ第三者ノ知り得ヘキ場所ニ於テ之ヲ公表スルノ義ニシテ其第三者カ被侮辱者ト利害ヲ同ウスルヤ否ヤハ侮辱ノ成否ヲ定ムルノ標準ト爲ルモノニ非ス

三七

一七八

○村立小學校生徒ノ運動場ヲ設置スルカ如キハ町村制第三十三條第二號ニ所謂町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ナレハ生徒ノ運動場ニ充ツル爲メ御料林拜借ノ事ヲ議決スルハ村會ノ權限ニ屬スヘキモノトス從テ其議決ニ干與セル村會議員ノ公務上ノ行動ニ關シ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ明治二十二年法律第二十八號第二條ノ犯罪ヲ構成ス

三七

一七八

○村長ノ選舉ニ關シ村會議員ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ縱令其選舉結了後村會閉會ノ際ニ係ルト雖モ議員ノ公務上ノ行爲ニ關セサルモノト云フヲ得ス

三七

二〇三

明治二十三年法律第九十九號

○明治二十三年法律第九十九號第一條(屋外竊盜ノ規定)ハ普通竊盜ニ關スル刑法第三百六十六條ノ例外ニシテ水火震災其他ノ變ニ乘シテ犯シタル竊盜(刑法第三百六十七條)及ヒ門戶墻壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キテ犯シタル竊盜(刑法第三百六十八條)ノ場合ニ適用スヘキ法律ニ非ス

三六

七〇一

○溜池ニ飼養シタル魚類ヲ竊取シタル所爲ハ即チ池沼ニ於ケル產物ヲ竊取シタルモノトス

三六

八七一

明治二十三年法律第百號

○明治二十三年法律第百號ニ所謂公吏トハ主トシテ地方自治團體ニ屬スル行政事務ノ執行ヲ掌ル吏員ヲ指シタルモノトス而シテ市參事會員ハ右法律ニ所謂公吏ナリトス

三五

八九

明治三十三年法律第五十一號

○株式會社ニ對スル酒造税法違反被告事件ニ付キ其代表者タル專務取締役ヲ被告人トシテ審理シタル末同會社ノ支配人カ業務ノ執行上税法ニ違反セシ事實ヲ認定シタルトキハ裁判所ハ被告人トシテ該取締役ノ名

義ヲ判文ニ掲載シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

明治三十五年法律第二十一號

○明治三十五年法律第二十二號第一條ハ國稅ノ課稅標準額及ヒ稅額ハ四拾五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ムト規定シ納稅者ニ課スヘキ稅額ハ總テ此規定ニ從ヒ之ヲ算定スヘキモノトス故ニ造石稅額ヲ以テ脫稅者ニ科スヘキ罰金ヲ定ムルノ標準ト爲シタル場合ニ於テモ亦其造石稅額ハ該規定ニ則リ之ヲ錢位ニ止メサルヘカラス

明治三十八年法律第六十六號

○苟クモ流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ通用スル紙幣ノ偽造物ヲ授付シ又ハ收受シタル以上ハ直ニ明治三十八年法律第六十六號第三條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ此事實以後ニ於ケル所爲如何ハ之ヲ問フノ限ニ在ラス

○犯人カ帝國政府ノ發行ニ係ル軍用手票偽造ノ目的ヲ以テ器械原料器具ヲ製造準備シタルノミナラス進ンテ其器械原料器具ヲ使用シ偽造ニ著手シタルトキハ其所爲ノ全部ニ對シテ明治三十八年法律第六十六號第

三

一〇四九

三

七五

三

一三三六

一條ヲ適用スヘキモノトス

三

一三四

明治三十八年法律第七十號

○上告裁判所ニ於テ被告人ニ對シ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀ヲ認ムルトキハ明治三十八年法律第七十號ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

三

一〇五

明治三十二年法律第九十八號(明治三十二年法律第六十八號ニ依リ改正)

(參照)

間接國稅犯則者處分法中間稅官吏ニ屬スル職務ハ葉煙草專賣事務ニ從事スル官吏モ亦之ヲ行フコトヲ得從テ葉煙草專賣局屬ハ葉煙草專賣法違犯事件ニ付キ犯則嫌疑者及ヒ參考人等ヲ尋問スルノ權利ヲ有ス

三

二四九

明治二十四年勅令第三號(明治二十五年勅令第六號ニ依リ改正)

(一部)

○大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定スルニ付キ明治二十五年勅令第六號第三條ハ何等ノ制限ヲ爲スコトナシ從テ其指定ノ訴訟ノ起リタル前ナル

ト後ナルトハ之ヲ問ハサルモノトス

○長官ノ指定ニ依リ國ヲ代表スル者ハ法定代理人ノ一種ニシテ訴訟代理人ニ非サレハ各審級ヲ通シテ訴訟ヲ爲スノ權能アルモノトス

明治三十五年勅令第二百五十六號(明治)

三十六年勅令第七十三號ニ依リ廢止)

(參照)

偽造ノ韓國通用白銅貨ヲ韓國專航ノ帆船ニ積込ミ韓國ニ向ヒ出帆シタル以上ハ該白銅貨ヲ帝國ヨリ輸出シタルモノトス從テ未ダ韓國ニ輸入ノ目的ヲ送ケサル場合ト雖モ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ニ依リ處罰スヘキモノトス
輸出トハ内國所在ノ貨物ヲ外國ニ向ケ輸送スルコトヲ意味ス從テ内國ノ貨物ヲ船舶ニ積載シ外國ニ向ケ内國ノ港灣ヲ發スルトキハ此瞬間ニ於テ其貨物ハ海外ニ輸出セラレタルモノトス苟クモ偽造ノ韓國白銅貨ヲ海外ニ輸送スルニ於テハ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其輸送ガ收利ノ目的ナルト他人ノ爲メナルトハ之ヲ問フノ要ナシ

明治三十六年勅令第七十三號(明治三十

第七十七號)ニ依リ廢止)

三五
六
九

三七
一九七

三六
六五

三六
六四二

三六
六四二

(參照)

明治三十六年勅令第七十三號第二條ニ所謂行使トハ偽造銀行券ヲ使用スルノ目的ヲ以テ流通ニ置クノ意ニ外ナラス從テ單ニ偽造券ヲ他人ニ示シ若クハ之ヲ流通ニ置カシムル爲メ他人ニ交付シタル事實ノミニテハ未タ以テ其行使アリトスルニ足ラス
情ヲ知リ行使ノ目的ヲ以テ偽造ノ外國銀行券ヲ取得シタル所爲ハ明治三十六年勅令第七十三號第二條ニ該當ス

明治三十七年勅令第七十七號(明治三十

八年)法律第六十六號ニ依リ廢止)

(參照)

偽造ノ外國銀行券ヲ行使セシムル目的ヲ以テ知情者ニ讓渡セル所爲ハ新法タル明治三十七年勅令第七十七號第三條一項ニ該當スレトモ舊法即チ明治三十六年勅令第七十三號ニ於テハ之ヲ罰スヘキ明文ナクシテ其所爲舊法ノ施行中ニ係ルトキハ無罪ヲ言渡スヘキモノトス

明治三十七年陸軍省令第一號(明治三十

八年)陸軍省令第十九號)ニ依リ廢止)

(參照)

明治三十七年陸軍省令第一號ハ荷クモ軍隊ノ進退其他軍機軍器ニ關スルモノハ一時ノ作戰計

明治三十七年勅令第七十七號 明治三十七年陸軍省令第一號 四三七

三七
一〇八

三七
三三七

三七
三三七

畫ニ屬シ既ニ終了シテ過去ノ事項ト爲リタルモノト雖モ豫メ陸軍大臣ノ許可ヲ得サル限リハ
之ヲ新聞雜誌ニ掲載シテ公表スルコトヲ許サ、ルノ旨趣ナリトス
明治三十七年陸軍省令第一號所定ノ陸軍大臣ノ許可權限ハ之ヲ戰地檢閱官ニ委任セル旨ノ規
定ナク、レハ該官吏ノ檢閱ハ單ニ通信ヲ許可スルニ過キスシテ之ニ依リ直ニ陸軍大臣ノ許可ヲ
經タルモノト云フヲ得ス

明治三十七年海軍省令第一號(明治三十
八年海軍

省令第十一號)
ニ依リ廢止

(參照)

明治三十七年海軍省令第一號ノ趣旨ハ軍機軍器ノ如何ヲ新聞又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ禁止
シタルハ勿論、總テ海軍軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ爲ス自由ヲモ制限シタルモノトス
明治三十七年海軍省令第一號ニ謂フ艦船トハ御用船等軍用一切ノ艦船ヲ包含セルモノトス
明治三十七年海軍省令第一號ハ或事項ニシテ荷クモ艦船軍隊ノ進退其他軍機軍器ニ關スル以
上ハ如何ナルヲ論セス總テ之ヲ新聞雜誌上ニ掲載スルコトヲ禁シタルモノナレハ許可ヲ得ス
シテ掲載シタル各事項毎ニ一罪ヲ構成スルモノトス而シテ其同一紙上又ハ同一記事欄内ニ掲
載シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ
明治三十七年海軍省令第一號ノ規定ハ艦隊艦船若クハ軍隊ノ進退ハ其性質上軍ノ行動ヲ表白
スルモノナルヲ以テ海軍大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ掲載スルコトヲ禁止スルノ趣意
ナリトス

三七	三七	三七	三七	三七	三七
二四四	二四四	六五二	六五二	七五〇	七五〇
二四四	二四四	六五八	六五八	七五〇	七五〇
		三六	三六	三六	三六

明治三十九年三月二十日著作
明治三十九年八月十一日發行

著作權所有

大審院

東京市神田區錦町二丁目二番地

發行者

中央大學

東京市麴町區內幸町一丁目三番地

代表者

菊池武夫

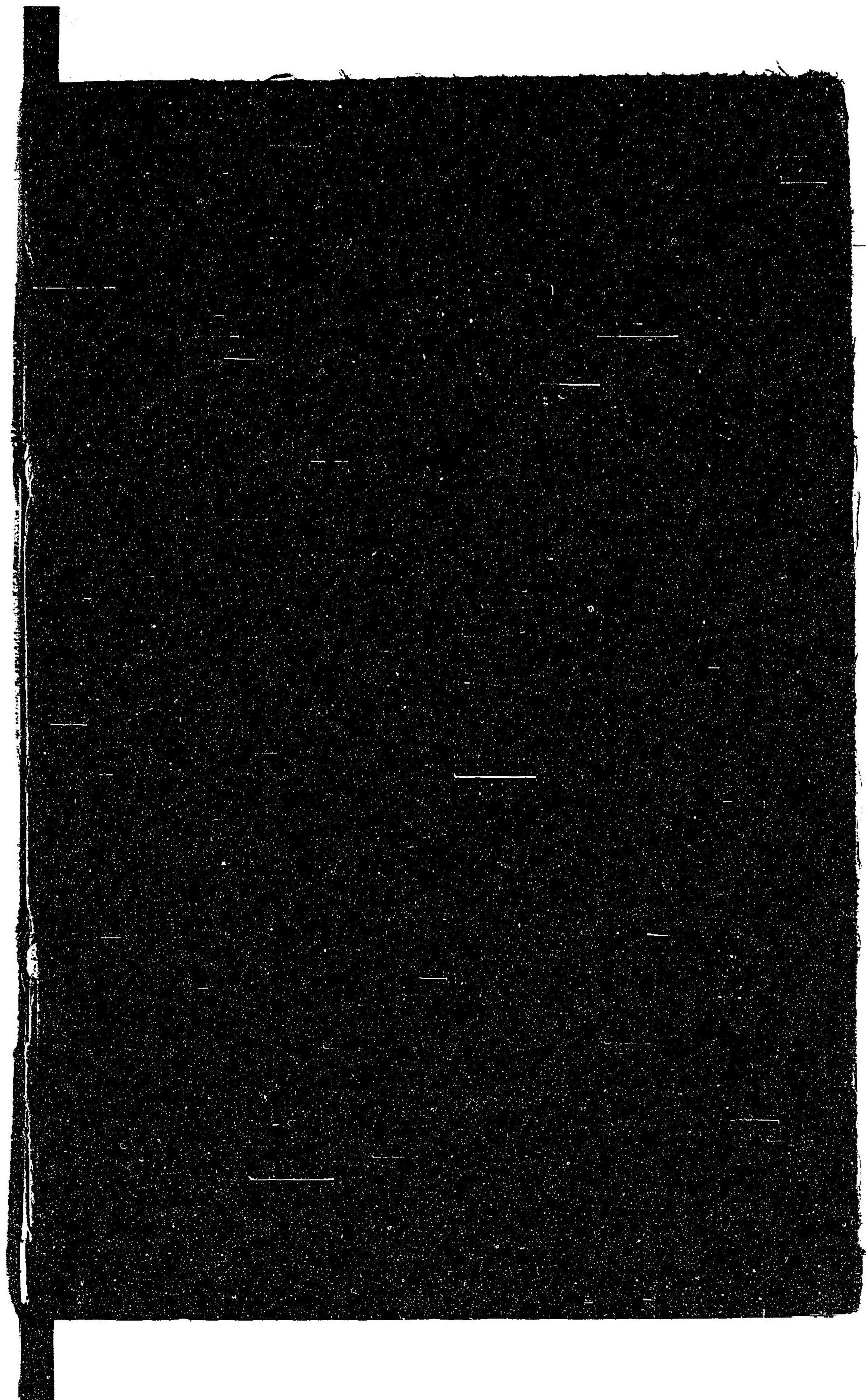
東京市麴町區下六番町十七番地

印刷者

同勞舎

松澤虹三

96
153



禁電子式複写

036552-001-4

CZ-2711-03

大審院刑事判例要旨類集

中央大学

M39-44

BBR-0444



